

## TS-WLC2

# 画面で見るマニュアル

注意

安心してお使いいただくために、パスワード変更のお願い

本製品は QR コードを使用してスマートフォンから簡単に接続することができます。

セキュリティ向上のために、本製品のオペレーター権限のパスワードを、工場出荷時の設定から変更してご使用いただくことをお勧めいたします。（「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照）

※ パスワードの変更をおこなった後、スマートフォンアプリ「QwatchView」でご利用いただく際は、変更した設定内容を「QwatchView」アプリに手動で設定し直してください。

（オペレーター権限の変更等をおこなった場合には [QR コネクト +] にて設定したスマートフォンからの本製品への接続はできなくなります）

### ■ 初期設定

## 設置方法

Step1 スタンドを取り付け設置する  
..... 14 ページ

Step2 本製品をルーターに接続する  
..... 16 ページ

Step3 本製品にアクセスする  
..... 21 ページ

### ■ よくある質問

映像を保存する ..... 35 ページ

動作検知モードを利用する  
..... 49 ページ

困ったときには ..... 107 ページ

# もくじ

<b>はじめに</b> .....	<b>6</b>
安全のために .....	7
使用上のご注意.....	9
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意 .....	9
使用上のご注意 .....	10
各部の名前と機能.....	11
前面 .....	11
背面 .....	12
側面 .....	12
<b>設置方法</b> .....	<b>13</b>
Step1 スタンドを取り付け設置する.....	14
Step2 本製品をルーターに接続する.....	16
無線LANルーターに接続する（WPS接続） .....	17
無線LANルーターに接続する（手動接続） .....	18
有線LANルーターに接続する.....	20
Step3 本製品にアクセスする .....	21
パソコンから本製品にアクセスする .....	22
スマートフォン/タブレットから本製品にアクセスする .....	28
<b>使用方法</b> .....	<b>33</b>
操作パネルについて .....	34
映像を保存する.....	35
ローカルに写真を保存する .....	35
ローカルに録画する .....	36
LAN DISKに写真を保存する/映像を録画する .....	38
SDカードに写真を保存する/映像を録画する.....	41

スピーカー機能を利用する .....	44
暗視モードを利用する .....	45
デジタルズームする .....	47
動作検知モードを利用する .....	49
動作検知の設定をする .....	49
範囲設定する .....	50
スケジュール設定する .....	52
FTP設定する .....	53
メール設定する .....	54
プライバシーモードを利用する .....	55
QRコード生成機能を利用する .....	57
1. QRコードを作成する .....	57
2. カメラを登録する .....	59
<b>詳細設定 .....</b>	<b>61</b>
IPアドレスの変更方法 .....	62
管理者パスワードの変更方法 .....	63
ユーザー権限を追加/編集/削除する方法 .....	64
ユーザー権限を追加する .....	65
ユーザー権限の内容を編集する .....	66
ユーザー権限を削除する .....	67
ファームウェアのバージョンアップ方法 .....	68
自動更新する場合（出荷時設定） .....	68
手動更新する場合 .....	68
出荷時設定に戻す方法 .....	71
設定画面で戻す場合 .....	71
本製品の [WPS/初期化スイッチ] で戻す方法 .....	72
<b>設定画面のリファレンス .....</b>	<b>73</b>
基本設定 .....	74
ネットワーク .....	74

無線設定.....	75
iobb.net設定 .....	76
RTSP.....	77
時刻設定.....	78
メール設定.....	79
ユーザー設定 .....	80
<b>ビデオ .....</b>	<b>81</b>
映像設定.....	81
表示設定.....	82
暗視設定.....	83
プライバシー設定 .....	84
音量設定.....	85
<b>動作検知 .....</b>	<b>86</b>
動作検知設定 .....	86
範囲設定.....	87
スケジュール機能設定 .....	88
FTP設定.....	89
<b>保存設定 .....</b>	<b>90</b>
保存先設定.....	90
スケジュール機能設定 .....	91
LAN DISK保存設定 .....	92
SDカード保存設定 .....	93
SDカードファイル管理.....	94
<b>システム .....</b>	<b>95</b>
システム設定.....	95
詳細設定.....	96
<b>システム情報 .....</b>	<b>97</b>
QRコード管理 .....	97
<b>QRコード管理.....</b>	<b>98</b>
QRコード管理 .....	98

<b>仕様</b> .....	<b>99</b>
動作環境 .....	100
ハードウェア仕様 .....	101
ソフトウェアの情報 .....	102
FFMPEG .....	102
<b>困ったときには</b> .....	<b>106</b>
困ったときには .....	107
アフターサービスについて .....	113
お問い合わせについて .....	113
修理について .....	114
ハードウェア保証規定 .....	115

# はじめに

---

安全のために .....	7 ページ
使用上のご注意 .....	9 ページ
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意 .....	9 ページ
使用上のご注意 .....	10 ページ
各部の名前と機能 .....	11 ページ

# 安全のために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。  
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

## ▼ 警告および注意表示

 <b>危険</b>	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
 <b>警告</b>	この表示の注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことがあります。
 <b>注意</b>	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

## ▼ 絵記号の意味

	禁止
	指示を守る

## 危険

-  **本製品を修理・分解・改造しない**  
火災や感電、やけど、故障の原因になります。

## 警告

-  **雷が鳴り出したら本製品や電源コードに触れない**  
感電の原因になります。
-  **ACアダプターや本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使わない**  
火災・感電の原因になります。
  - ・お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
  - ・水の入ったもの（コップ、花びんなど）を上に乗けない。
  - ・万一、ACアダプターや本製品がぬれてしまった場合は、絶対に使用しないでください。
-  **本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない**  
誤って飲み込み、窒息や胃などへの障害の原因になります。万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。
-  **本製品を飛行機の中で使わない**  
飛行機の計器などの誤動作の原因になります。
-  **故障や異常のまま、通電しない**  
本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続先から取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
-  **煙がでたり変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止する**  
コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
-  **本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない**  
火災の原因になります。
-  **本製品を病院内で使用しない**  
医療機器の誤動作の原因になることがあります。
-  **ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等の近くでは使用しない**  
電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

## 警告 (つづき)

### 電源 (AC アダプター・コード・プラグ) について

-  AC アダプターや電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使わない  
電源コードから発煙したり火災の原因になります。

 AC100V (50/60Hz) 以外のコンセントにつながらない  
発熱、火災の恐れがあります。

 電源コードや AC アダプターにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などはしない  
電源コードがよじれた状態や折り曲げた状態で使用しないでください。  
電源コードの芯線 (電気の流れるところ) が断線したり、ショートし、火災・感電の原因になります。

 ゆるいコンセントにつながらない  
電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでみがあるコンセントにはつながらないでください。発熱して火災の原因になります。

 電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない  
電源プラグを持って抜いてください。  
電源コードを引っ張ると電源コードに傷が付き、火災や感電の原因になります。
-  添付の AC アダプターや電源コードは、他の機器につながらない  
添付の電源コードおよび AC アダプターは本製品専用です。他の機器につなぐと、火災や感電の原因になります。

 コンセントまわりは定期的に掃除する  
長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、火災の原因になります。(トラッキング現象)  
トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜いて乾いた布で電源プラグをふき掃除してください。

 煙がでたり変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く  
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

 じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使わない  
火災の原因になります。

 熱器具のそばに配線しない  
電源コード被覆が破れ、火災や感電、やけどの原因になります。

 テーブルタップを使用する時は定格容量以内で使用する、たこ足配線はしない  
テーブルタップの定格容量 (「1500W」などの記載) を超えて使用すると、テーブルタップが過熱し、火災の原因になります。

## 注意

-  本製品を踏まない  
破損し、ケガの原因になります。特に、小さなお子様にはご注意ください。
-  長時間にわたり一定の場所に触れ続けられない  
本製品を一定時間使うと、本製品が熱く感じる場合があります。長時間にわたり一定の場所に触れ続けると、低温やけどを起こす恐れがあります。

### 電源 (AC アダプター・コード・プラグ) について

-  人が通行する場所に配線しない  
足を引っ掛けると、ケガの原因になります。

# 使用上のご注意

## 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です!)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

### ●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- ・ メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

### ●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- ・ コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。弊社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

※ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、株式会社アイ・オー・データ機器は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

## 使用上のご注意

■ 以下の機器は無線局と同じ周波数帯を使用します。近くでは使用しないでください。

- ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
- 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

■ 携帯電話、PHS、テレビ、ラジオを、本製品の近くではできるだけ使用しないでください。携帯電話、PHS、テレビ、ラジオ等は、無線 LAN と異なる電波の周波数帯を使用していますが、本製品を含む無線 LAN 製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

■ 間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等は通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。

ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

■ 本製品の電源を入れ直す場合は、電源を切った後、5 秒以上待ってから電源を入れてください。

■ 本製品は防水仕様ではありません。屋内で使用してください。

■ 通信環境や表示端末の性能により、設定した FPS の値がでない場合があります。コマ送りのように見える場合は解像度を下げてください。

■ 外部のネットワークから本製品の映像を見る場合は、インターネット接続環境が必要です。

■ 複数のルーターが存在している環境ではご利用頂けない場合があります。

■ QR コネクト + 機能で簡単に本製品の接続ができます。「かんたん接続シート」は大切に保管して下さい。

■ セキュリティを向上するために、本製品のオペレーター権限のパスワードを変更して下さい。

出荷時状態で登録されている本製品のオペレーター権限の変更、削除をした場合は、変更した設定内容を「QwatchView」アプリに手動で設定しなおしてください。（QR コネクト + で登録した設定では、本製品に接続することができません。）

■ 録画について

- ・事前に試し録画をして、正常に録画されることを確認してください。
- ・本製品を使用中、万一これらの故障や不具合により録画されなかった場合の録画内容の補償については、ご容赦ください。
- ・本製品の動作中に停電などが発生すると、録画された内容が消去されてしまう場合があります。
- ・LAN DISK や microSD カード内に保存された重要なデータについては、必ず定期的に「バックアップ」をおこなってください。接続製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。

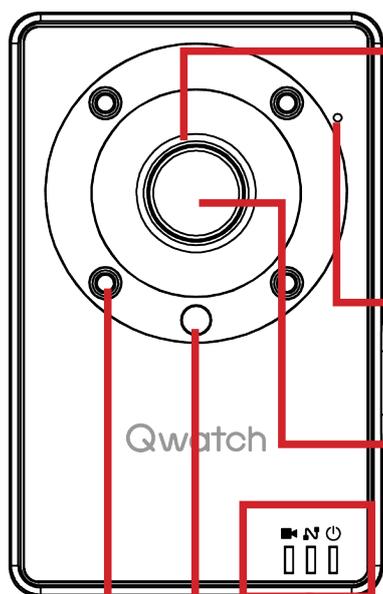
■ microSD カードに画像、録画データを保存する場合は、ご使用の S D カードの耐久性に合わせた運用をおこなってください。

<参考> 1 時間の録画データサイズは約 1.2GB です。(H.264 HD1280x720 ビットレート :3Mbps フレームレート :24)

映像設定、録画環境によってサイズは増減します。

# 各部の名前と機能

## 前面



### ピントリング

左へ回す ↶: 近くにピントをあわせます。

右へ回す ↷: 遠くにピントをあわせます。

※ 左に回し続けるとピントリングが外れます。元に戻す際には異物が混入しないようご注意ください。

### マイク

音声を入力します。

### レンズ

映像を撮影します。

※ 汚れがつくため、直接指で触れないでください。

※ キャップを取り外してご利用ください。

### ランプ

ランプ	色	状態
ACCESS	橙	点灯 カメラ動作中 (インターネット接続中)
		点滅 カメラ動作中 (インターネット接続確認中) ※ 本製品がインターネットに接続している環境の場合、起動中に約 10 秒間点滅します。
LAN	緑	点灯 LAN 接続中
		点滅 データ送受信中
	消灯 未接続状態	
POWER	緑	点灯 電源オン
		点滅 起動中
	消灯 電源オフ	

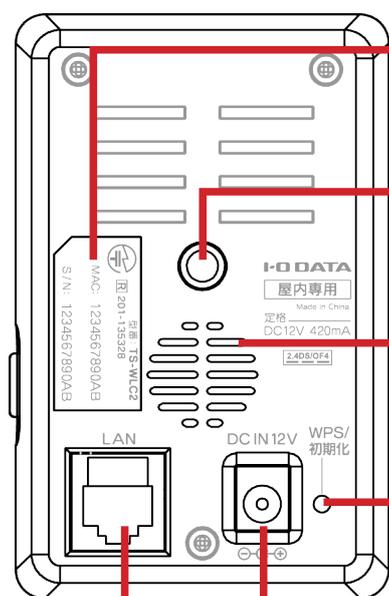
### 光センサー

周りの明るさを感知します。

### 赤外線 LED

暗視モードの [自動切り替え機能] の設定を [有効] にした場合、暗くなると自動的に点灯します。

## 背面



### MAC アドレス

本製品の MAC アドレスです。

### スタンド固定穴

添付のスタンドを取り付けます。

### スピーカー

パソコンやスマートフォンからの音声を出力できます。

### WPS/ 初期化スイッチ

1 秒以上長押し：WPS での設定モードになります。

10 秒以上 (POWER ランプが点滅するまで) 長押し：本製品の設定を初期値に戻します。

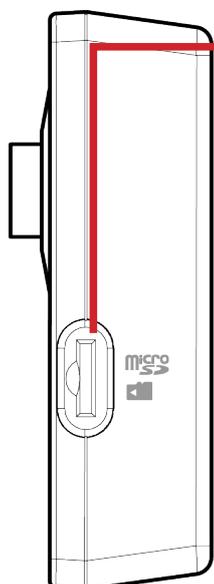
### DC-IN

添付の AC アダプターを接続します。

### LAN コネクター

有線 LAN ルーターに接続する場合、LAN ケーブルを取り付けます。

## 側面



### microSD カードスロット

microSD カードを挿入します。

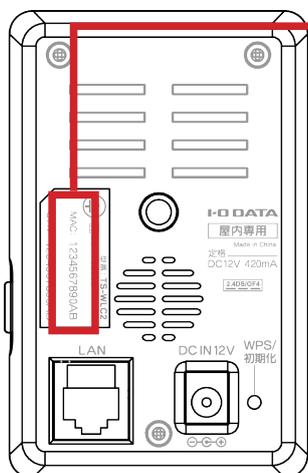
# 設置方法

---

- Step1 スタンドを取り付け設置する ..... 14 ページ
- Step2 本製品をルーターに接続する ..... 16 ページ
- Step3 本製品にアクセスする ..... 21 ページ

# Step1 スタンドを取り付け設置する

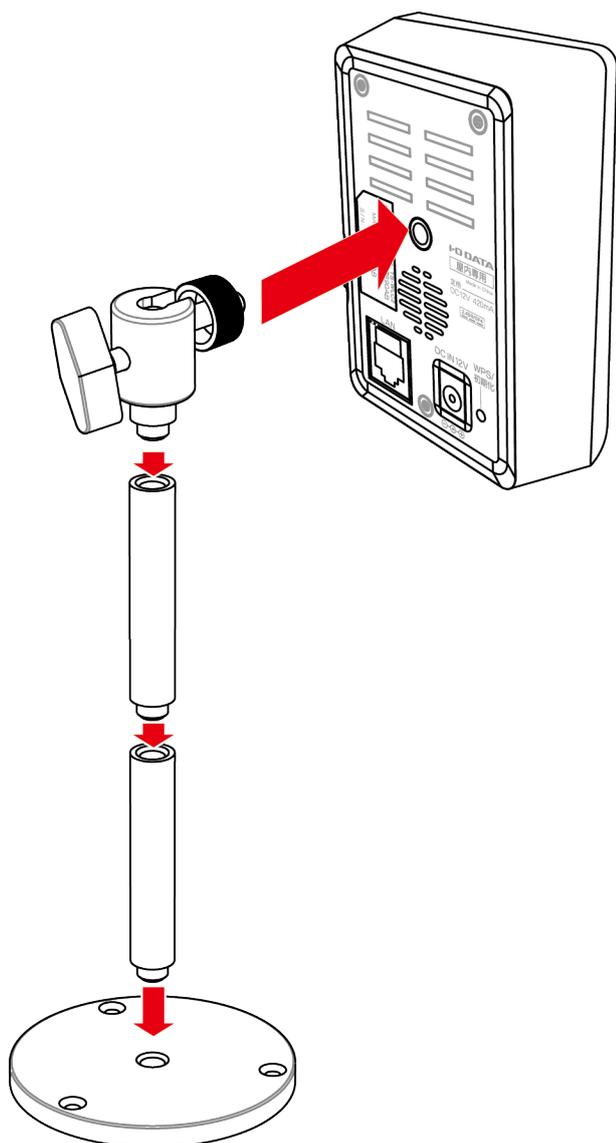
1



本製品背面のシール上に記載の MAC アドレスをメモ

※ 本製品の MAC アドレスが、本製品にアクセスする際の初期パスワードになります。

2



添付のスタンドセットを図のように組み立て、  
設置する

※ ネジは最後までしっかりと締めてください。

※ 低くする場合は、支柱を 1 本だけ使用します。

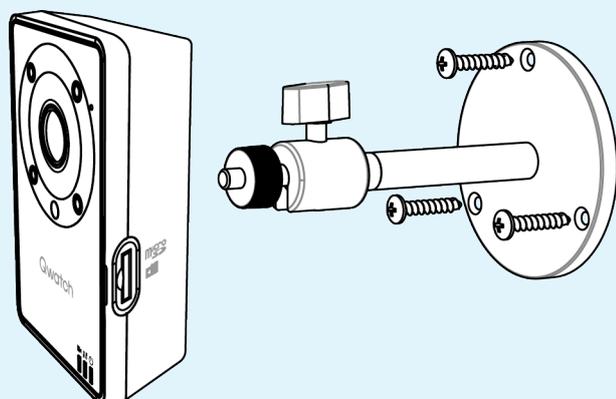
ヒント



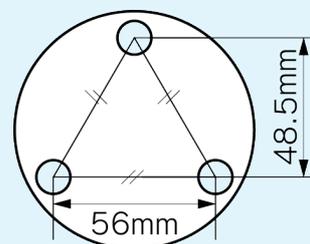
### 壁に固定する場合

添付のネジで壁に固定することができます。

※ 石こうボードなど中空の壁に取り付ける場合は、落下しないよう適切な器具で固定してください。



▼ 台座図面



ヒント



### 角度をかえる場合

固定ネジをゆるめると、本製品の向きや角度を変えられます。

※ 向きや角度を変更後、ネジは強めに締めてください。

※ 一部固定できない角度があります。



以上で設置は完了です。

次に【Step2 本製品をルーターに接続する】へお進みください。

---

## Step2 本製品をルーターに接続する

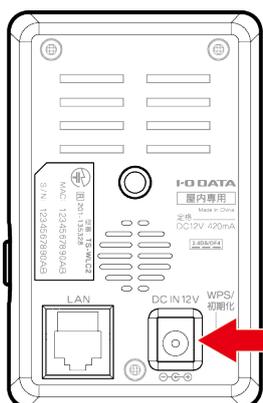
---

本製品を無線または有線のいずれかの方法でルーターに接続します。

無線LANルーターに接続する（WPS接続） .....	17 ページ
無線LANルーターに接続する（手動接続） .....	18 ページ
有線LANルーターに接続する .....	20 ページ

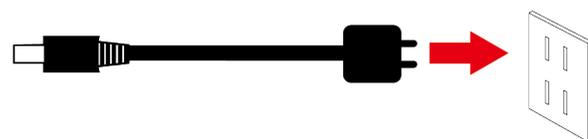
## 無線LANルーターに接続する (WPS接続)

1



添付の AC アダプターを本製品の DC IN と電源コンセントに挿す

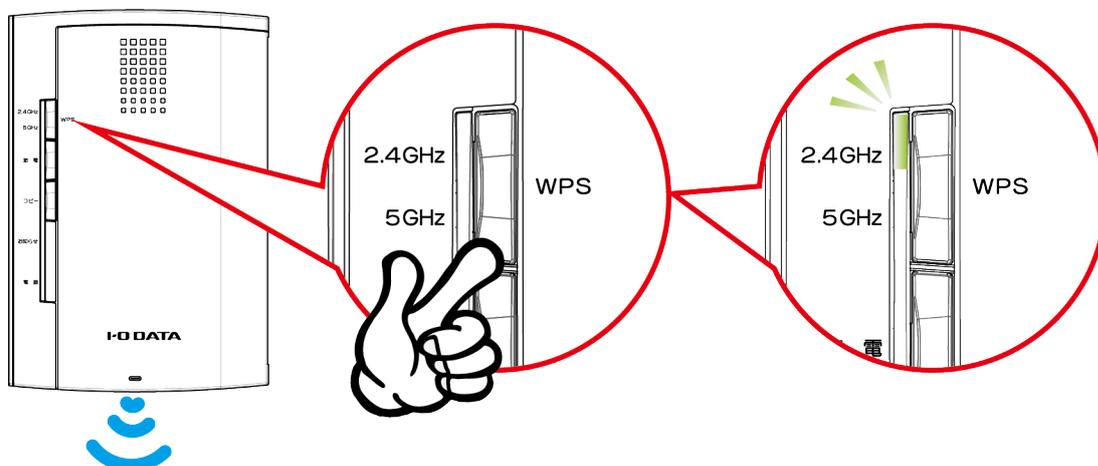
※ カメラが起動するとポロロンと音になります。  
起動するまで約 40 秒かかります。



2

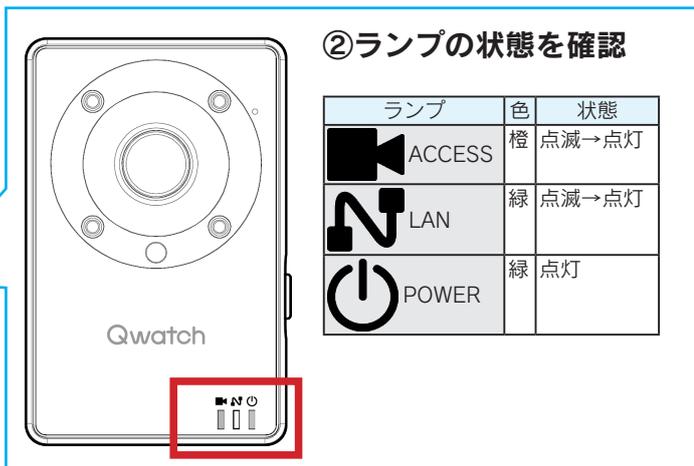
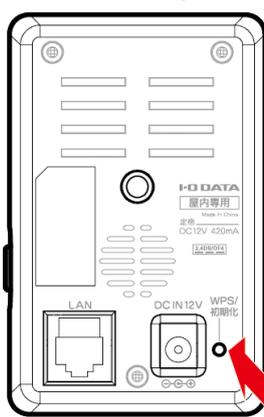
①無線 LAN ルーターの WPS ボタンを約 3 秒間長押し ② WPS ランプが点滅したら離す

▼例：WN-AC1167DGR



3

①本製品の [WPS/ 初期化スイッチ] を細いピンなどで約 1 秒間押す



②ランプの状態を確認

ランプ	色	状態
ACCESS	橙	点滅→点灯
LAN	緑	点滅→点灯
POWER	緑	点灯

⇒すべてのランプが  
点灯にかわったら、  
接続完了です。

以上で接続は完了です。

次に「Step3 本製品にアクセスする」21 ページへお進みください。

ヒント

WPSで接続できない、または手動で設定する場合

WPS で接続できない場合は、手動で無線 LAN ルーターと接続してください。

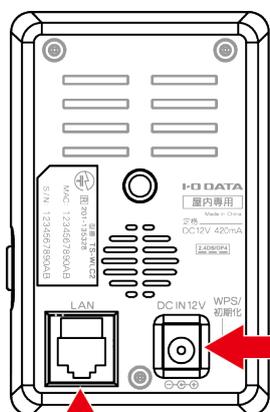
(「無線 LAN ルーターに接続する (手動接続)」 P.18 参照)



## 無線LANルーターに接続する（手動接続）

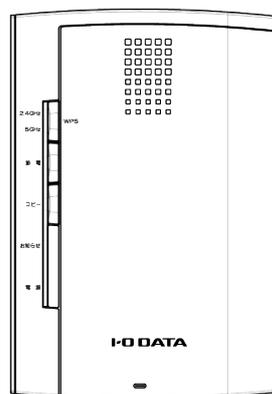
- ※ 事前に無線 LAN ルーターの SSID と暗号キーを控えておいてください。
- ※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンから設定画面を開いて設定します。
- ※ 本製品を一旦、ルーターに有線 LAN 接続して設定します。

1



### ①添付の AC アダプターを本製品の DC IN と電源コンセントに挿す

※ カメラが起動するとポロロンと音になります。  
起動するまで約 40 秒かかります。



### ② LAN ケーブルを本製品の LAN ポートと ルーターの LAN ポート（有線ポート）に挿す

※ LAN ケーブルは別途ご用意ください。

2

### 本製品の設定画面を開く

（「パソコンから本製品にアクセスする」22 ページの手順で本製品にアクセスし、[設定] をクリックする）

## 3

- ① [設定] をクリック
- ② [基本設定] → [無線設定] の順にクリック

⑤ [設定] を  
クリック

③ [検索] をクリックし、表示されたアクセス  
ポイントのリストから接続したい SSID を選択

④ [プレシェアードキー] を入力

無線設定	
無線 LAN 接続	有効を選択します。
ネットワークタイプ	インフラストライクチャモードのみ選択可能です。
モード	接続する通信規格を選択します。
使用する帯域	使用する帯域を選択します。
無線 LAN の検索	[検索] 押すと、無線 LAN ルーターを検索します。
SSID	接続する無線 LAN ルーターの SSID を入力します。
チャンネル	接続する無線 LAN ルーターのチャンネル (自動のみ) が表示されます。(選択はできません。)
暗号化方式	接続する無線 LAN ルーターの暗号化方式を選択します。
プレシェアードキー	暗号化方式が [WPA-PSK(TKIP)] または [WPA2-PSK(AES)] の場合、暗号キーを入力します。 ※ 8 ~ 63 文字の ASCII 文字
WEP キーの種類	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーの種類 (16 進数 / ASCII) を選択します。
WEP キーの長さ	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーの長さ (64Bit/128Bit) を選択します。
デフォルトキー	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーのデフォルトキー番号を選択してください。
WEP キー 1 ~ 4	暗号化方式が [WEP] の場合、暗号キーを入力します。デフォルトキーで選択されたキーを入力してください。 ※ 16 進数の場合は 0 ~ 9 または A ~ F の文字列、ASCII の場合は半角英数字

## 4

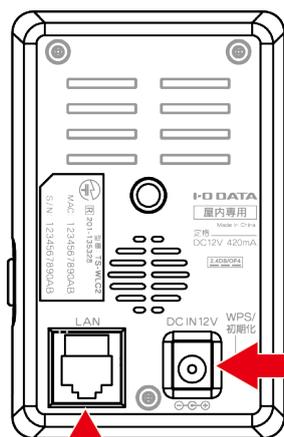
## 本製品から LAN ケーブルを外す

以上で接続は完了です。

次に「Step3 本製品にアクセスする」21 ページへお進みください。

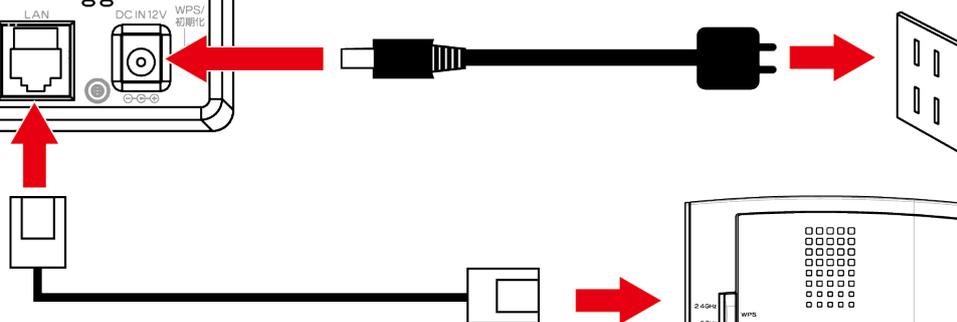
## 有線LANルーターに接続する

1



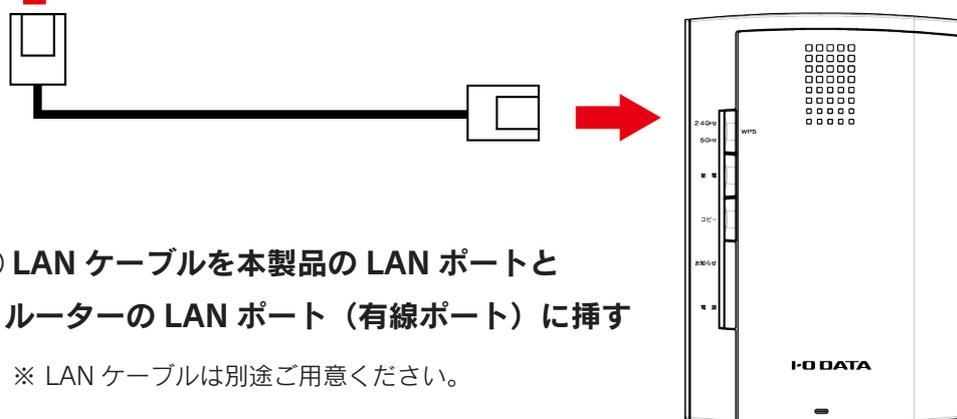
### ① 添付の AC アダプターを本製品の DC IN と電源コンセントに挿す

※ カメラが起動するとポロロンと音がなります。  
起動するまで約 40 秒かかります。



### ② LAN ケーブルを本製品の LAN ポートと ルーターの LAN ポート（有線ポート）に挿す

※ LAN ケーブルは別途ご用意ください。



以上で接続は完了です。次に「Step3 本製品にアクセスする」21 ページへお進みください。

# Step3 本製品にアクセスする

<b>パソコンから本製品にアクセスする</b> .....	<b>22 ページ</b>
同じネットワーク上から本製品にアクセスする .....	22 ページ
外出先のパソコンから本製品にアクセスする .....	26 ページ
<b>スマートフォン/タブレットから本製品にアクセスする</b> .....	<b>28 ページ</b>
QRコネクト+で登録する .....	28 ページ
手動で登録する.....	30 ページ
カメラ名を選択して登録する .....	32 ページ

## パソコンから本製品にアクセスする

### 同じネットワーク上から本製品にアクセスする

#### Windowsの場合

「Magical Finder」をダウンロードし、インストールして利用します。

※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンで操作してください。

※ IP アドレスは DHCP から取得になります。取得した IP アドレスは設定アプリ「Magical Finder」で確認できます。

- 1 Web ブラウザーを起動して以下の URL を入力またはクリックする  
⇒ Magical Finder のダウンロードページが開きます。

<http://www.iodata.jp/r/3022>

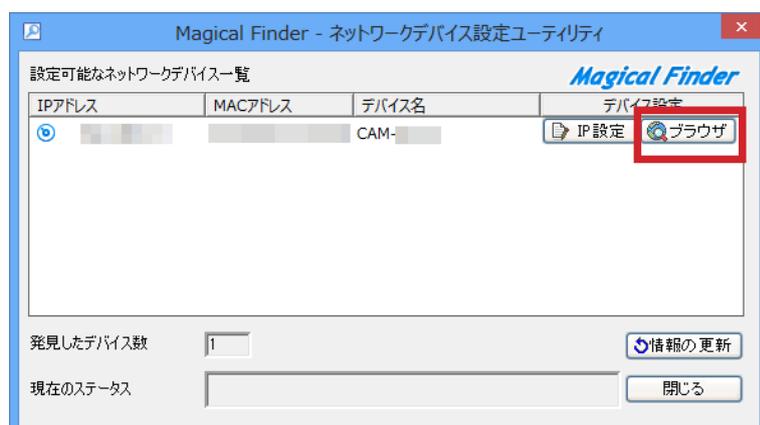
- 2 ご利用の OS を選択し、ダウンロードをクリック

- 3 [実行] をクリック

- 4 デスクトップ上にあるダウンロードした [mfinderXXX.exe] ファイルをダブルクリック  
※ XXX には数字が入ります。

- 5 [mfinderXXX] フォルダを開き、[MagicalFinder.exe] をダブルクリック  
※ XXX には数字が入ります。  
⇒ Magical Finder が開きます。

- 6 デバイス名を確認し、本製品のブラウザボタンをクリック



※ 本製品のデバイス名は「CAM-（MAC アドレス下 4 桁）」で表示されます。

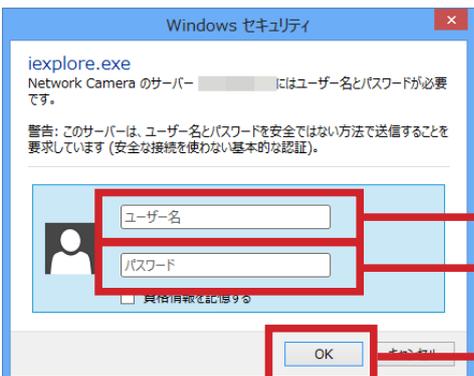
※ 本製品の MAC アドレスは、本製品背面のシール上に記載しています。

#### Q & A

#### Magical Finderで本製品が検出されない場合

「情報の更新」をクリックします。また、セキュリティソフトがインストールされている場合は、一時的にセキュリティソフトの機能を停止・終了します。

**7**



① ユーザー名に [admin] を入力

② パスワードに本製品の MAC アドレス (12 桁) を入力

※ 本製品の MAC アドレスは、本製品背面のシール上に記載しています。  
(大文字、半角英数字で入力)

※ パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。

※ 管理者権限以外でログインすると使用に制限があります。  
(「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照)

③ [OK] をクリックします。

**8** [ActiveX のダウンロード] をクリック

※ Internet Explorer を利用し、ご利用のパソコンで初めて本製品にアクセスした際、ActiveX のインストールが必要です。

※ すでに ActiveX がインストールされている場合は、本製品の映像が表示され、本製品へのアクセスは完了です。



**9** [実行] をクリック

※ ご利用環境により「…はダウンロードしたユーザーの人数が少ないため、コンピューターに問題を起こす可能性があります」のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

[操作] → [実行] の順にクリックしてください。

※ 「この Web ページは、' I-O DATA DEVICE, INC.' の ' IPCamPluginHMPT.ocx' アドオンを実行しようとしています。」のメッセージが表示された場合、[許可] をクリックしてください。

**10** ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、[はい] または [許可] をクリック

**11** [Next] → [Next] → [Install] → [Finish] の順にクリック

**12** Web ブラウザー画面の更新 (🔄) をクリック

本製品の映像が表示されたら、本製品へのアクセスは完了です。

※ カメラ映像が表示されない場合は、Web ブラウザーを起動しなおしてください。

ヒント

本製品と同じネットワーク上からアクセスする場合、以下のいずれかの方法でアクセスが可能です

- 設定アプリ「Magical Finder」をインストールし、アクセスする方法 (本手順)
- Web ブラウザーから「http:// ホスト名 : HTTP ポート番号」にアクセスする方法  
(「外出先のパソコンから本製品にアクセスする」 P.26 参照)



## Mac OSの場合

「Magical Finder」をダウンロードし、インストールして利用します。

※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンで操作してください。

※ IP アドレスは DHCP から取得になります。取得した IP アドレスは設定アプリ「Magical Finder」で確認できます。

- 1 Web ブラウザーを起動して以下の URL を入力またはクリックする  
⇒ Magical Finder のダウンロードページが開きます。

<http://www.iodata.jp/r/3022>

- 2 ご利用の OS を選択し、ダウンロードをクリック

- 3 Dock の [ダウンロード] → [MagicalFinder\_for\_Mac\_XXX.dmg] ファイルの順にダブルクリック ※ XXX には数字が入ります。

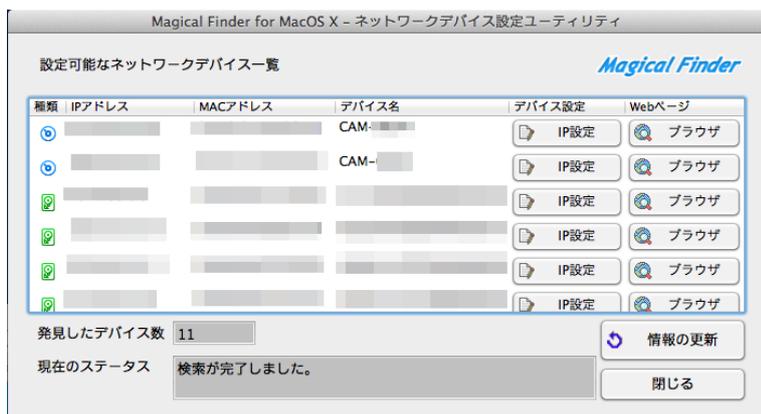
- 4 デスクトップ上にあるダウンロードした [MagicalFinder for Mac XXX] → [Magical Finder] の順にダブルクリック ※ XXX には数字が入ります。

- 5 インターネット上からのダウンロードファイルを開く場合の警告が表示された場合、[開く] をクリック  
⇒ Magical Finder が開きます。

- 6 デバイス名を確認し、本製品のブラウザボタンをクリック

※ 本製品のデバイス名は「CAM- (MAC アドレス下 4 桁)」で表示されます。

※ 本製品の MAC アドレスは、本製品背面のシール上に記載しています。



### Q & A

#### Magical Finderで本製品が検出されない場合

[情報の更新] をクリックします。また、セキュリティソフトがインストールされている場合は、一時的にセキュリティソフトの機能を停止・終了します。

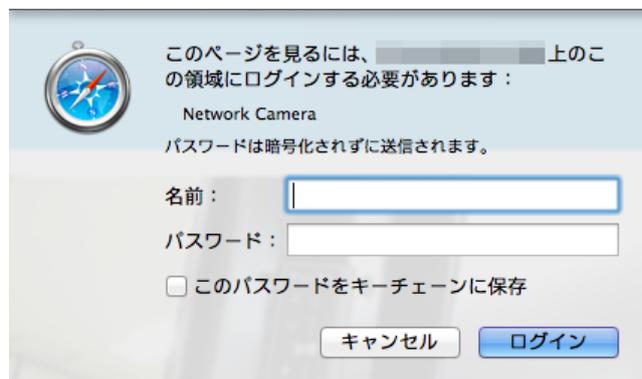
## 7

- ① ユーザー名に [admin] を入力
- ② パスワードに本製品の MAC アドレス（12 桁）を入力
- ③ [OK] をクリックします。

※ 本製品の MAC アドレスは、本製品背面のシール上に記載しています。（大文字、半角英数字で入力）

※ パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。

※ 管理者権限以外でログインすると使用に制限があります。（「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照）



**本製品の映像が表示されたら、本製品へのアクセスは完了です。**

※ カメラ映像が表示されない場合は、Web ブラウザーを起動しなおしてください。

## ヒント

本製品と同じネットワーク上からアクセスする場合、以下のいずれかの方法でアクセスが可能です 

- 設定アプリ「Magical Finder」をインストールし、アクセスする方法（本手順）
- Web ブラウザーから「http:// ホスト名 : HTTP ポート番号」にアクセスする方法  
（「外出先のパソコンから本製品にアクセスする」 P.26 参照）

## 外出先のパソコンから本製品にアクセスする

外出先のパソコンからは、ダイナミック DNS サービス「iobb.net」のホスト名と HTTP ポート番号を組み合わせた URL にアクセスします。

### 1 添付の「かんたん接続シート」に記載の iobb.net の【ホスト名】と【HTTP ポート番号】を確認



カメラ名: 000XXX000000

ホスト名: 000XXX000000

HTTP  
ポート番号: 000XXX000000

RTSP  
ポート番号: 000XXX000000

※ ホスト名は「wcam- (半角英数字 7 文字) .iobb.net」になります。

※ 「http:// ホスト名 :HTTP ポート番号」が本製品へアクセスする URL になります。

(例) http://wcam-1234567.iobb.net:12345

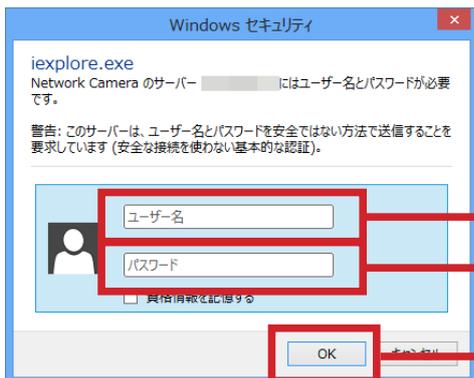
### 2 外出先のパソコンから Web ブラウザーを起動

### 3 手順 1. で確認した「http:// ホスト名 : HTTP ポート番号」にアクセス

(例) http://wcam-1234567.iobb.net:12345



### 4



① ユーザー名に [admin] を入力

② パスワードに本製品の MAC アドレス (12 桁) を入力

※ 本製品の MAC アドレスは、本製品背面のシール上に記載しています。  
(大文字、半角英数字で入力)

※ パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。

※ 管理者権限以外でログインすると使用に制限があります。

(「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照)

③ [OK] をクリックします。

## 5 [ActiveX のダウンロード] をクリック

- ※ Internet Explorer を利用し、ご利用のパソコンで初めて本製品にアクセスした際、ActiveX のインストールが必要です。
- ※ すでに ActiveX がインストールされている場合は、本製品の映像が表示されます。以上で本製品へのアクセスは完了です。



## 6 [実行] をクリック

- ※ ご利用環境により「... はダウンロードしたユーザーの人数が少ないため、コンピューターに問題を起こす可能性があります」のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

[操作] → [実行] の順にクリックしてください。

- ※ 「このWeb ページは、' I-O DATA DEVICE,INC.' の ' IPCamPluginHMPT.ocx' アドオンを実行しようとしています。」のメッセージが表示された場合、[許可] をクリックしてください。

## 7 ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、[はい] または [許可] をクリック

## 8 [Next] → [Next] → [Install] → [Finish] の順にクリック

## 9 Web ブラウザー画面の更新 (🔄) をクリック

**本製品の映像が表示されます。以上で、本製品へのアクセスは完了です。**

- ※ カメラ映像が表示されない場合は、Web ブラウザーを起動しなおしてください。

# スマートフォン/タブレットから本製品にアクセスする

## QRコネクト+で登録する

QRコードでカメラを登録する手順を説明します。

※ QRコネクト+を利用することにより、ホスト名やユーザー名、パスワードの入力を省略することができます。

※ IPアドレスはDHCPから取得になります。

※ iPhone/iPad/iPod touchは、iOS 6.0以降かつカメラ付モデルに対応しています。

※ Android OSは、Ver 4.0以降に対応しています。(オートフォーカス機能のあるカメラを搭載した端末を推奨します。)

※ カメラ非搭載機種の場合は、手動で設定してください。(「手動で登録する」P.30参照)

※ 本手順(QRコネクト+)でカメラを登録すると、オペレーター権限になります。管理者権限でログオンする場合は、手動で本製品を登録してください。(「手動で登録する」P.30参照)

※ 以下、画面例はiOS 7です。

### 1 [QwatchView] をインストールする

※ iOSの場合：AppStoreからQwatchViewを検索してインストール

※ Androidの場合：[Playストア] (Google Play) または

[Androidマーケット] からQwatchViewを検索してインストール



### 2 [QwatchView] を開く

### 3 [編集] → [登録] → [QRコネクト+で登録] → [読み取り開始] の順にタップ



4 QRコードを読み取り範囲内にかざして読み込む



- 5 ① iOS の場合：[登録] をタップ  
Android の場合：端末の戻るボタンをタップ
- ② [完了] をタップ



本製品の映像が表示されます。以上でカメラの登録は完了です。  
以降は、「QwatchView」を起動するだけで、モニタリングできます。

ヒント

「QwatchView」の使用方法については、弊社Webページより「QwatchView」の画面で見るマニュアルをご覧ください



➔ <http://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/qwatchview.pdf>

## 手動で登録する

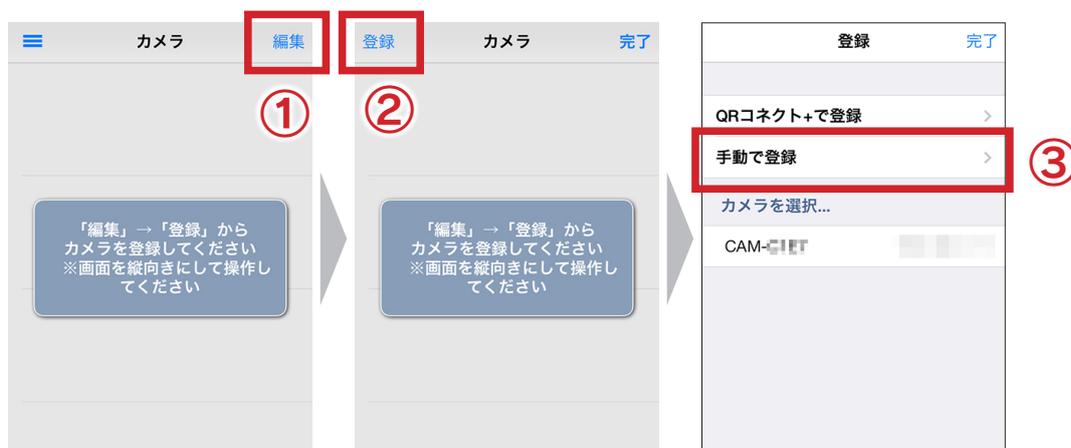
### 1 【QwatchView】をインストールする

- ※ iOS の場合 : AppStore から QwatchView を検索してインストール
- ※ Android の場合 : [Play ストア] (Google Play) または [Android マーケット] から QwatchView を検索してインストール



### 2 【QwatchView】を開く

### 3 【編集】 → 【登録】 → 【手動で登録】の順にタップ



### 4 各項目を入力し、【完了】をタップ



カメラ名	カメラに任意の名前をつけ、入力します。
ホスト名	カメラに添付の「かんたん接続シート」に記載してあるホスト名を入力します。
ユーザー名	[admin] またはカメラで登録しているアカウントのユーザー名を入力します。 (「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照)
パスワード	上記 [ユーザー名] に設定しているパスワードを入力します。 ※ ユーザー名が [admin] の場合、出荷時設定は本製品の MAC アドレス (12 桁) を入力します。 カメラ背面のシール上に記載しています。(大文字、半角英数字で入力)

## 参考

## 本製品のIPアドレス等を入力して登録する場合

[手動] をタップし、本製品の IP アドレス等を入力して、[完了] をタップします。

キャンセル 登録 完了 ③

接続モード

モード 自動 手動 ①

②

カメラ名 必須

IPアドレス 必須

ポート番号 必須

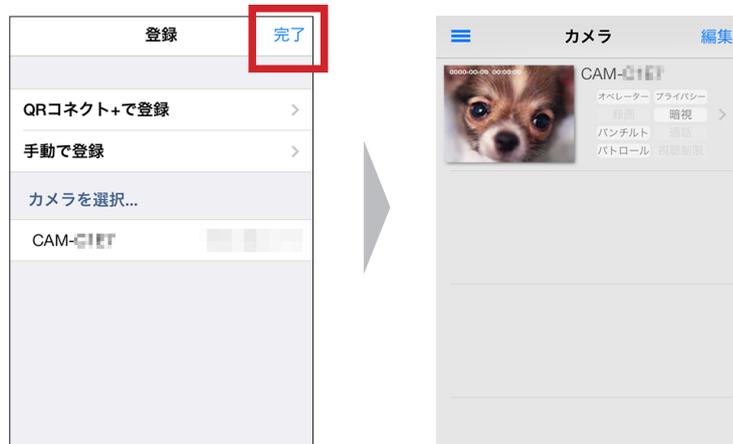
アカウント

ユーザー名 必須

パスワード 必須

カメラ名	カメラに任意の名前をつけ、入力します。
IP アドレス	本製品の IP アドレスを入力します。
ポート番号	本製品のポート番号を入力します。 ※ [80] で登録すると、同一ネットワーク上からのみカメラにアクセス可能です。
ユーザー名	[admin] またはカメラで登録しているアカウントのユーザー名を入力します。 (「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照)
パスワード	上記 [ユーザー名] に設定しているパスワードを入力します。 ※ ユーザー名が [admin] の場合、出荷時設定は本製品の MAC アドレス (12 桁) を入力します。カメラ背面のシール上に記載しています。(大文字、半角英数字で入力)

## 4 [完了] をタップ



本製品の映像が表示されます。以上でカメラの登録は完了です。

以降は、「QwatchView」を起動するだけで、モニタリングできます。

## ヒント

「QwatchView」の使用方法については、弊社Webページより「QwatchView」の画面で見るマニュアルをご覧ください

➔ <http://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/qwatchview.pdf>



## カメラ名を選択して登録する

※ ご利用のスマートフォン等と同じネットワーク上のカメラを登録する場合は、本手順で登録が可能です。

### 1 [QwatchView] をインストールする

※ iOS の場合：AppStore から QwatchView を検索してインストール

※ Android の場合：[Play ストア] (Google Play) または

[Android マーケット] から QwatchView を検索してインストール

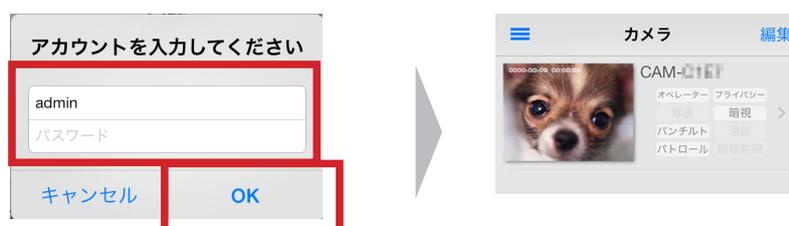


### 2 [QwatchView] を開く

### 3 [編集] → [登録] → カメラ名の順にタップ



### 4 ユーザー名、パスワードを入力し、[OK] をタップ



ユーザー名	[admin] またはカメラで登録しているアカウントのユーザー名を入力します。 (「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」 P.64 参照)
パスワード	上記 [ユーザー名] に設定しているパスワードを入力します。 ※ ユーザー名が [admin] の場合、出荷時設定は本製品の MAC アドレス (12 桁) を入力します。 カメラ背面のシール上に記載しています。(大文字、半角英数字で入力)

本製品の映像が表示されます。以上でカメラの登録は完了です。

以降は、「QwatchView」を起動するだけで、モニタリングできます。

ヒント

「QwatchView」の使用方法については、弊社Webページより「QwatchView」の画面で見るマニュアルをご覧ください



➔ <http://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/qwatchview.pdf>

# 使用方法

---

操作パネルについて .....	34 ページ
映像を保存する .....	35 ページ
スピーカー機能を利用する .....	44 ページ
暗視モードを利用する .....	45 ページ
デジタルズームする .....	47 ページ
動作検知モードを利用する .....	49 ページ
プライバシーモードを利用する .....	55 ページ
QRコード生成機能を利用する .....	57 ページ

# 操作パネルについて

操作パネルでは写真の保存などの操作がおこなえます。

操作パネルはブラウザにより表示される機能が異なります。Internet Explorer では、すべての機能をご利用いただけます。



ローカル保存 (Internet Explorer でのみ表示)	
	表示されている画像 (静止画) をローカルのドライブに保存します。クリックすると、画像を撮影します。
	表示されている映像 (動画) をローカルのドライブに保存します。クリックすると、録画を開始します。同様にクリックすると録画を停止し、保存します。
LAN DISK/SD カード保存	
	クリックすると、表示されている画像 (静止画) を撮影し、LAN DISK または SD カードに保存します。(出荷時設定: SD カード) ※ 保存先の設定は、事前に本製品の設定画面からおこないます。
	クリックすると、表示されている映像 (動画) の録画を開始します。もう一度、クリックすると録画を停止し、LAN DISK または SD カードに保存します。(出荷時設定: SD カード) ※ 保存先の設定は、事前に本製品の設定画面からおこないます。
画面	
	映像を全画面表示します。
	拡大の有効 / 無効および拡大率を設定します。
モード	
	プライバシーモードをオン / オフします。 ※ 事前に本製品の設定画面でプライバシー機能を [有効] に設定しておく必要があります。
	暗視モードへの自動切り替え機能が [有効] (出荷時設定) になっている場合は、周りの明るさを感じ、自動的に暗視モードに切り替わります。 ※ クリックすると、カメラの自動切り替え機能の [有効] ⇄ [無効] を切り替えます。 ※ 自動切り替え機能が [有効] になっていても、カメラの周りが明るい場合は暗視モードに切り替わりません。
	動作検知モードをオン / オフします。
カメラのマイク音量	
	本製品のマイクの音量を選択します。クリックするとミュート (消音) します。
カメラのスピーカー音量	
	本製品のスピーカーの音量を選択します。クリックすると本製品のスピーカー機能をオン / オフします。

# 映像を保存する

## ローカルに写真を保存する

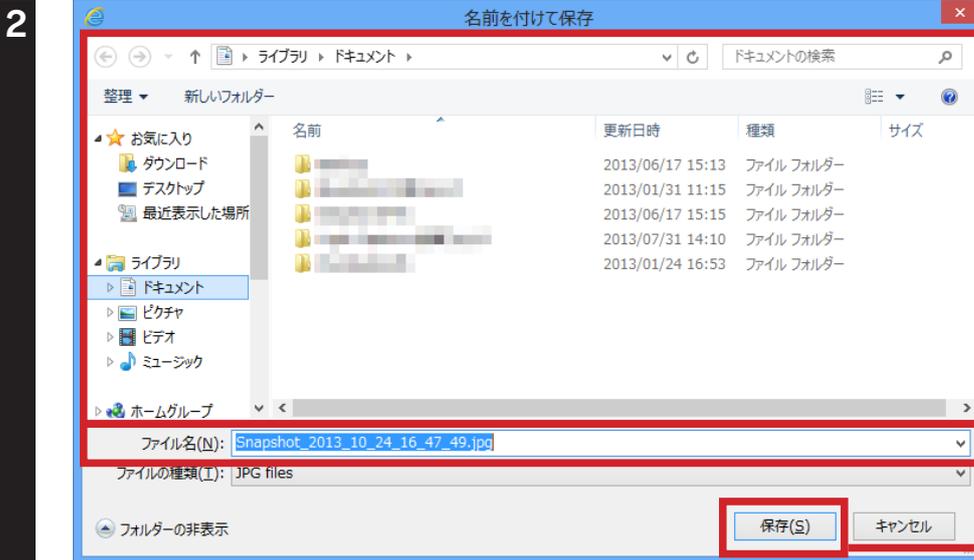
表示されている画像（静止画）をローカルのドライブに保存します。

※ 本機能は Internet Explorer でのみご利用可能です。

### 1 ① Internet Explorer で本製品のライブ映像を表示する



② 撮影したいタイミングで「ローカル保存」の （写真を保存）アイコンをクリック



① 保存先フォルダーを選択

② ファイル名を変更する場合は任意の名前を入力

③ [保存] をクリック

※ ファイル形式：JPEG（映像設定のフォーマットが MJPEG の時）または BMP（映像設定のフォーマットが H264 の時）（「映像設定」81 ページで設定）

※ ファイル名：Snapshot\_（撮影日時）

以上で写真の保存は完了です。

## ローカルに録画する

映像をパソコンに録画する手順を説明します。

※ 本機能は Internet Explorer でのみご利用可能です。

### 1 Internet Explorer で本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- 2
- ① [設定] をクリック
  - ② [ローカル保存設定] をクリック



- ③ [ローカル保存設定] の各項目を設定
- ④ [設定] をクリック
- ⑤ [Live View] をクリック

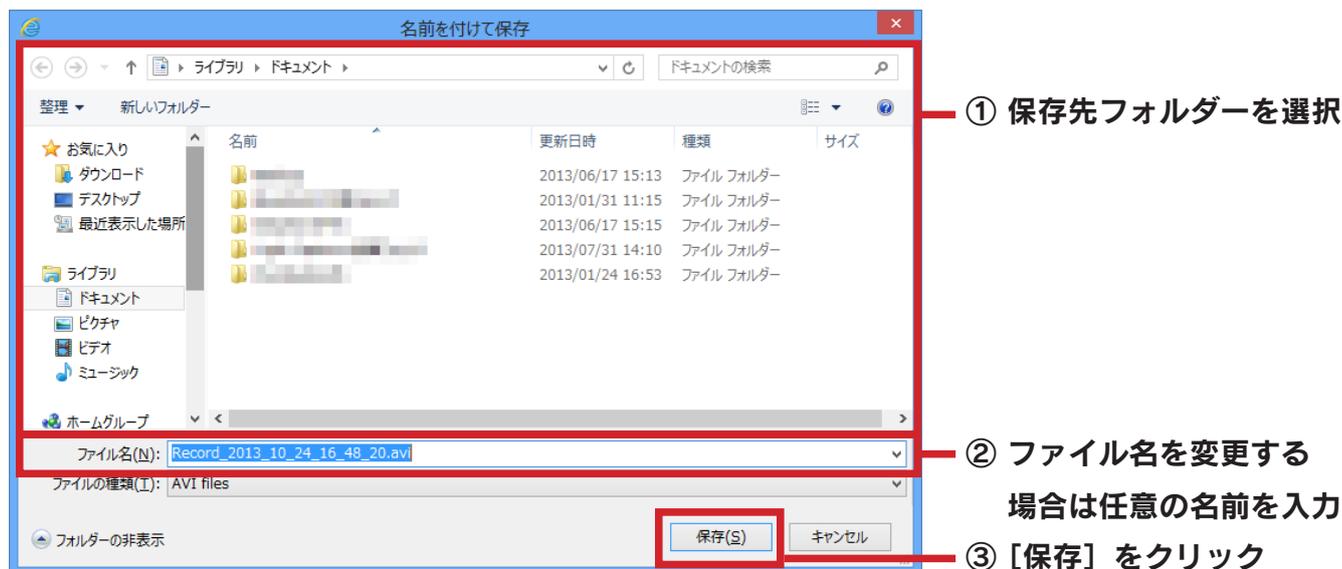
ローカル保存設定	
録画の自動停止時間	選択した時間が経過すると自動的に録画を停止します。[指定なし]を選択すると、録画停止ボタンをクリックするまで録画を続けます。
1 ファイル当たりの最大サイズ	1 ファイルに保存できる最大のファイルサイズを選択します。

### 3



録画したいタイミングで「ローカル保存」の  (録画) アイコンをクリック

4



## 5 録画を停止したいタイミングで (停止) アイコンをクリック

- ※ 「録画の自動停止時間」の設定をしている場合は、 (停止) アイコンをクリックせずに待ちます。設定した時間で自動的に録画が止まります。また、「録画の自動停止時間」の設定をしている場合でも  (停止) アイコンをクリックすると、すぐに録画を停止します。
- ※ ファイル形式：MJPEG または H264 (「映像設定」 81 ページで設定)
- ※ ファイル名：Record\_ (撮影日時)

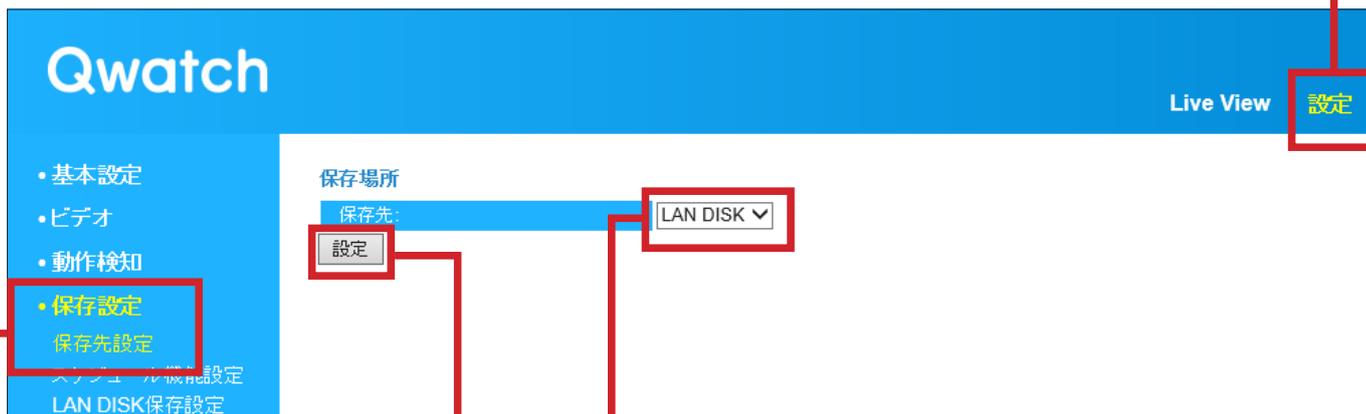
以上で映像の録画は完了です。

# LAN DISKに写真を保存する/映像を録画する

本製品の設定画面にて保存先を登録し、映像を保存します。

- 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する**  
 ※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- 2** ① [設定] をクリック  
 ② [保存設定] → [保存先設定] の順にクリック



- ③ [LAN DISK] を選択  
 ④ [設定] をクリック

- 3** ① [LAN DISK 保存設定] をクリック



- ② [LAN DISK 保存設定] の各項目を設定  
 ③ [設定] をクリック

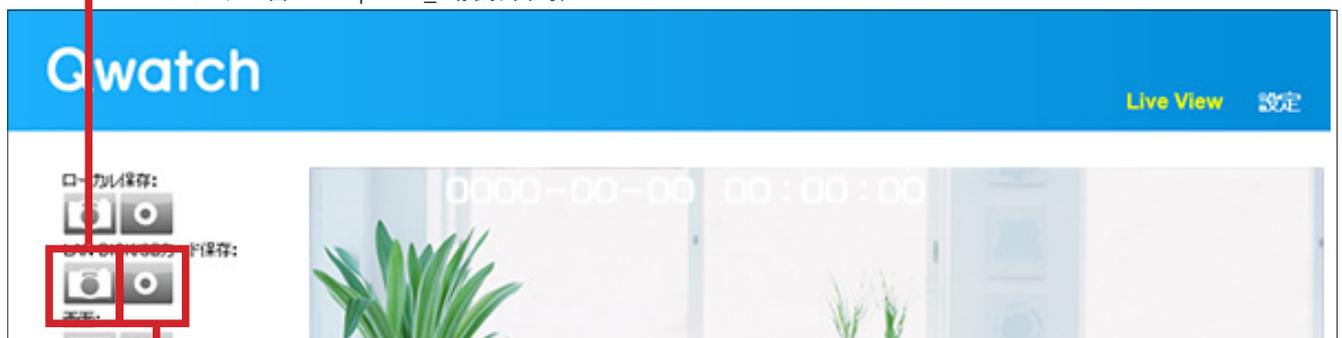
- ④ [Live View] をクリック

LAN DISK 保存設定				
ステータス	LAN DISK の状態を表示します。			
	<table border="1"> <tr> <td>非接続</td> <td>LAN DISK にファイルを保存できない状態です。LAN DISK が非接続または未設定または設定内容が間違っています。</td> </tr> <tr> <td>接続</td> <td>LAN DISK にファイルを保存できる状態です。</td> </tr> </table>	非接続	LAN DISK にファイルを保存できない状態です。LAN DISK が非接続または未設定または設定内容が間違っています。	接続
非接続	LAN DISK にファイルを保存できない状態です。LAN DISK が非接続または未設定または設定内容が間違っています。			
接続	LAN DISK にファイルを保存できる状態です。			
保存場所	<p>保存先 LAN DISK の IP アドレスとフォルダー名を入力します。                  ( \\ IP アドレス \ 共有フォルダー名 \ (フォルダー名) )                  ※ ルートフォルダーに保存する場合は、「\ (フォルダー名)」は不要です。                  ※ フォルダーおよびファイルを含めたフルパスで 256 文字まで入力できます。                  ※ 保存先フォルダー名は半角英数字で指定します。                  例) 以下の場所を保存先に指定する場合、「\\192.168.0.200\disk\camera」と入力します。</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">IP アドレス</span> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">共有フォルダー</span> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">フォルダー</span> </p>			
録画容量不足の通知	<p>有効にすると、録画容量が足りなくなった場合に、メールでお知らせします。                  ※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。(「メール設定」P.79 参照)</p>			
録画の自動停止時間	<p>選択した時間が経過すると自動的に録画を停止します。[指定なし]を選択すると、録画停止ボタンをクリックするまで録画を続けます。</p>			
連続録画	<p>有効にすると、連続で録画します。                  ※ 容量が足りなくなった場合、古い録画ファイルを消して (上書きして)、録画を続けます。</p>			
1ファイル当たりの最大サイズ	<p>1 ファイルに保存できる最大のファイルサイズを選択します。</p>			
アクセス権限	<p>制限なし / 制限ありを選択します。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td>制限あり</td> <td>保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定されている場合に選択します。LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを設定します。</td> </tr> <tr> <td>制限なし</td> <td>保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定していない場合に選択します。</td> </tr> </table>	制限あり	保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定されている場合に選択します。LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを設定します。	制限なし
制限あり	保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定されている場合に選択します。LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを設定します。			
制限なし	保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定していない場合に選択します。			
ユーザー名	<p>上記、アクセス制限を [制限あり] にした場合、LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを入力し、設定します。</p>			
パスワード				

4

**写真を保存する場合 ▶ 撮影したいタイミングで「LAN DISK/SD カード保存」の  (LAN DISK/SD カードへ写真を保存) アイコンをクリック**

- ※ ファイル形式：JPEG (映像設定のフォーマットが MJPEG の時) または BMP (映像設定のフォーマットが H264 の時) (「映像設定」81 ページで設定)
- ※ ファイル名：Snapshot\_ (撮影日時)



**映像を録画する場合 ▶ 撮影したいタイミングで「LAN DISK/SD カード保存」の  (LAN DISK/SD カードへ録画) アイコンをクリック**

## 5 映像を録画する場合のみ ▶ 録画を停止したいタイミングで (停止) アイコンをクリック

- ※ 「録画の自動停止時間」の設定をしている場合は、 (停止) アイコンをクリックせずに待ちます。設定した時間で自動的に録画が止まります。また、「録画の自動停止時間」の設定をしている場合でも  (停止) アイコンをクリックすると、すぐに録画を停止します。
- ※ ファイル形式：MJPEG または H264 (「映像設定」81 ページで設定)
- ※ ファイル名：Record\_ (撮影日時)

以上で映像の LAN DISK への保存は完了です。

**注意** LAN DISKに録画中に通信障害が発生すると、録画中のデータが壊れる可能性があります。

そのため、LAN DISK への録画する際は、本製品を有線 LAN ルーターへ接続し、「1 ファイル当たりの最大サイズ」の設定を小さく設定することをお勧めします。

**ヒント** 映像設定により録画時間は異なります。

「困ったときには」 - 「映像設定により録画時間が違う」 112 ページを参照し、設定してください。



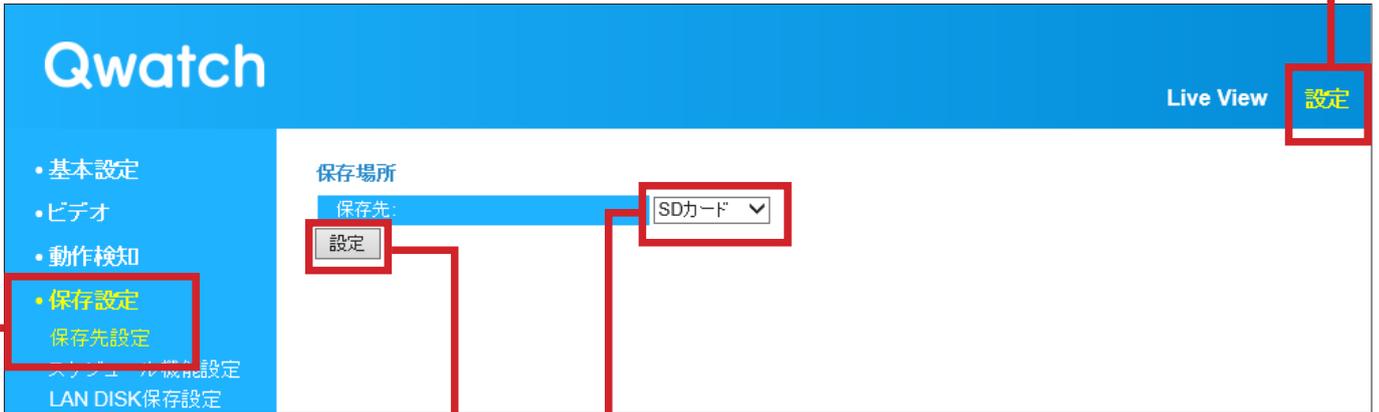
# SDカードに写真を保存する/映像を録画する

本製品の設定画面にて保存先を登録し、映像を保存します。

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- 2
- ① [設定] をクリック
  - ② [保存設定] → [保存先設定] の順にクリック



- ③ [SD カード] を選択
- ④ [設定] をクリック

## 3 ① [SD カード保存設定] をクリック



- ② [SD カード保存設定] の各項目を設定
- ③ [設定] をクリック
- ④ [Live View] をクリック

SD カード保存設定	
ステータス	SD カードの状態を表示します。
	SD カードが挿入されていません。 SD カードが取り付けられていないか、保存できない状態です。
	使用可能 SD カードにファイルを保存できる状態です。
残り容量	SD カードの空き容量を表示します。
録画容量不足の通知	有効にすると、録画容量が足りなくなった場合に、メールでお知らせします。 ※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。
録画の自動停止時間	選択した時間が経過すると自動的に録画を停止します。[指定なし] を選択すると、録画停止ボタンをクリックするまで録画を続けます。
連続録画	有効にすると、連続で録画します。 ※ 容量が足りなくなった場合、古い録画ファイルを消して（上書きして）、録画を続けます。
1 ファイル当たりの最大サイズ	1 ファイルに保存できる最大のファイルサイズを選択します。
SD フォーマット	クリックすると、SD カードを初期化します。 ※ 初期化すると SD カード内のデータがすべて消えてしまいます。 SD カード内に保存された重要なデータについては、必ず定期的にバックアップをおこなってください。接続製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。 (バックアップとは保存したデータを守るために、HDD・BD・DVD などの記憶媒体にデータの複製を作成することです。データを移動させることはバックアップではありません。)
マウント解除	クリックすると、本製品の電源が入っている状態でも SD カードを取り外せます。

## 4

写真を保存する場合 ▶ 撮影したいタイミングで「LAN DISK/SD カード保存」の  (LAN DISK/SD カードへ写真を保存) アイコンをクリック

※ ファイル形式：JPEG（映像設定のフォーマットが MJPEG の時）または BMP（映像設定のフォーマットが H264 の時）（「映像設定」81 ページで設定）

※ ファイル名：Snapshot\_（撮影日時）



映像を録画する場合 ▶ 撮影したいタイミングで「LAN DISK/SD カード保存」の  (LAN DISK/SD カードへ録画) アイコンをクリック

## 5 映像を録画する場合のみ ▶ 録画を停止したいタイミングで (停止) アイコンをクリック

- ※ 「録画の自動停止時間」の設定をしている場合は、 (停止) アイコンをクリックせずに待ちます。設定した時間で自動的に録画が止まります。また、「録画の自動停止時間」の設定をしている場合でも  (停止) アイコンをクリックすると、すぐに録画を停止します。
- ※ ファイル形式：MJPEG または H264 (「映像設定」81 ページで設定)
- ※ ファイル名：Record\_ (撮影日時)

以上で写真の SD カードへの保存は完了です。

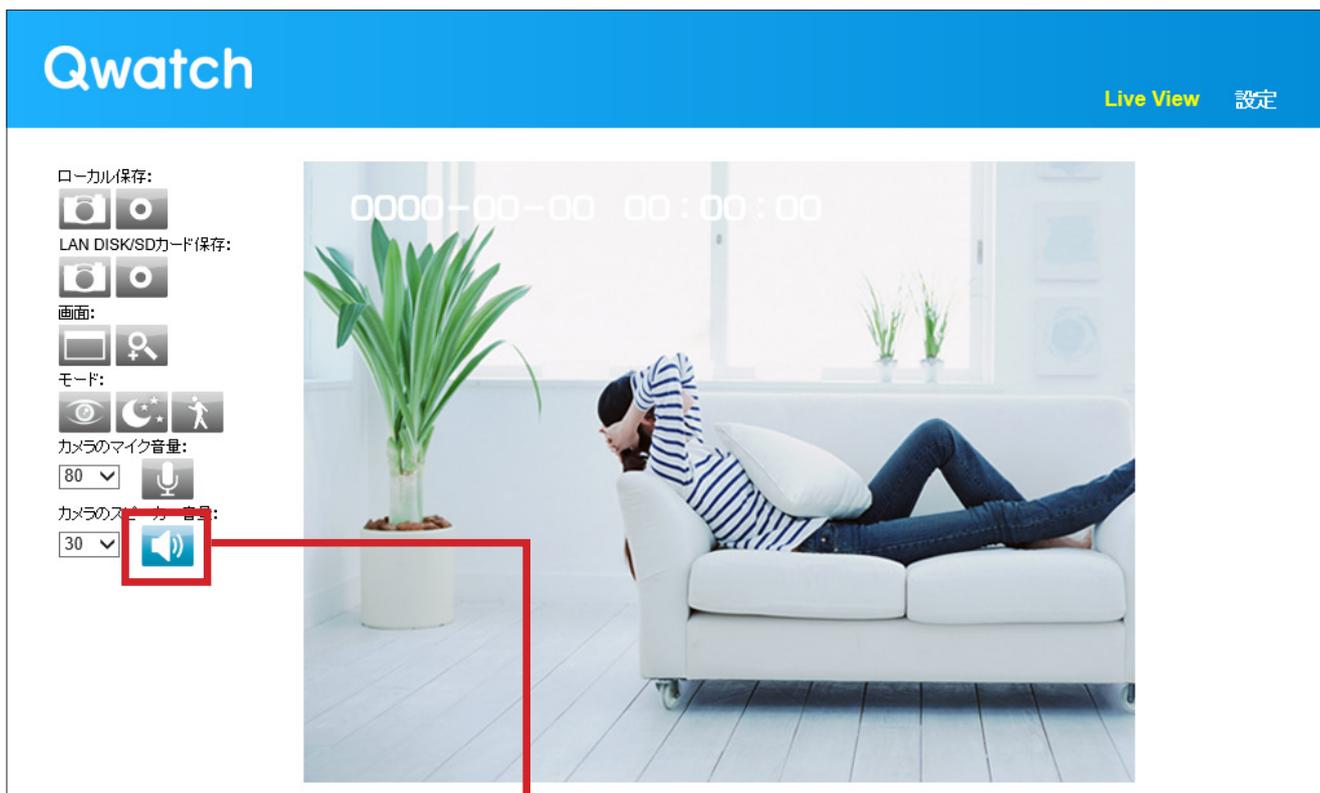
**ヒント** 映像設定により録画時間は異なります。  
「困ったときには」 - 「映像設定により録画時間が違う」112 ページを参照し、設定してください。



# スピーカー機能を利用する

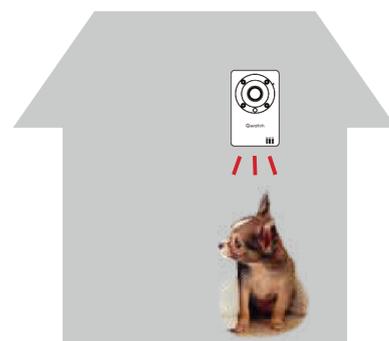
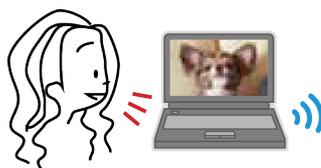
※ 本機能は Internet Explorer でのみご利用可能です。

## 1 ① WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する



## ② カメラのスピーカー音量アイコン をクリックし、オン にする

2 パソコンのマイク等から話しかける  
⇒ 本製品背面のスピーカーから  
音がでます。



以上で、スピーカー機能の操作は完了です。スピーカーの音を消したい場合は、再度カメラのスピーカー音量アイコン  をクリックして、オフ  にしてください。

### ヒント マイクの音を消したい場合

本製品前面のマイクに話しかけると、パソコン等のスピーカーから音がでます。マイクの音を消したい場合は、カメラのマイク音量アイコン  をクリックし、消音  にしてください。

# 暗視モードを利用する

暗視モードを利用すると、暗闇の中、約 5m 先の映像まで表示することができます。

注意

暗視モードをご利用になる前にピントをあわせてください

暗視モードではピントリングが熱く感じる場合があります。



事前にピントの調整をおこない、暗視モードご利用中はピントリングに触れないでください。

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

### 2 ① [設定] をクリック

#### ② [ビデオ] → [暗視設定] の順にクリック



#### ③ [有効] を選択

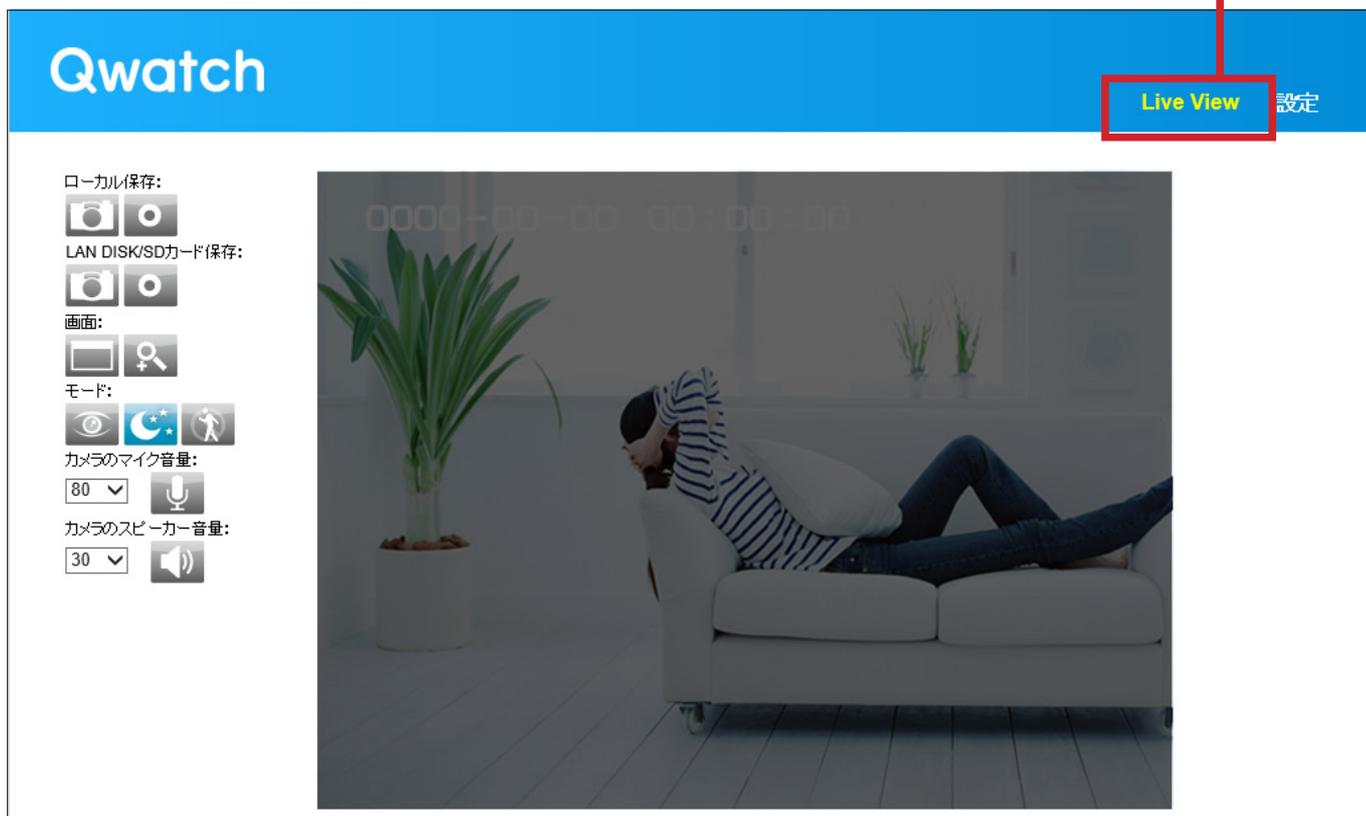
#### ④ [設定] をクリック

3

### [Live View] をクリック

※ 暗視モードアイコン  をクリックすると、カメラの自動切り替え機能の [有効]  ⇔ [無効]  を切り替えます。

※ 自動切り替え機能が [有効]  になっていても、カメラの周りが明るい場合は暗視モードに切り替わりません。

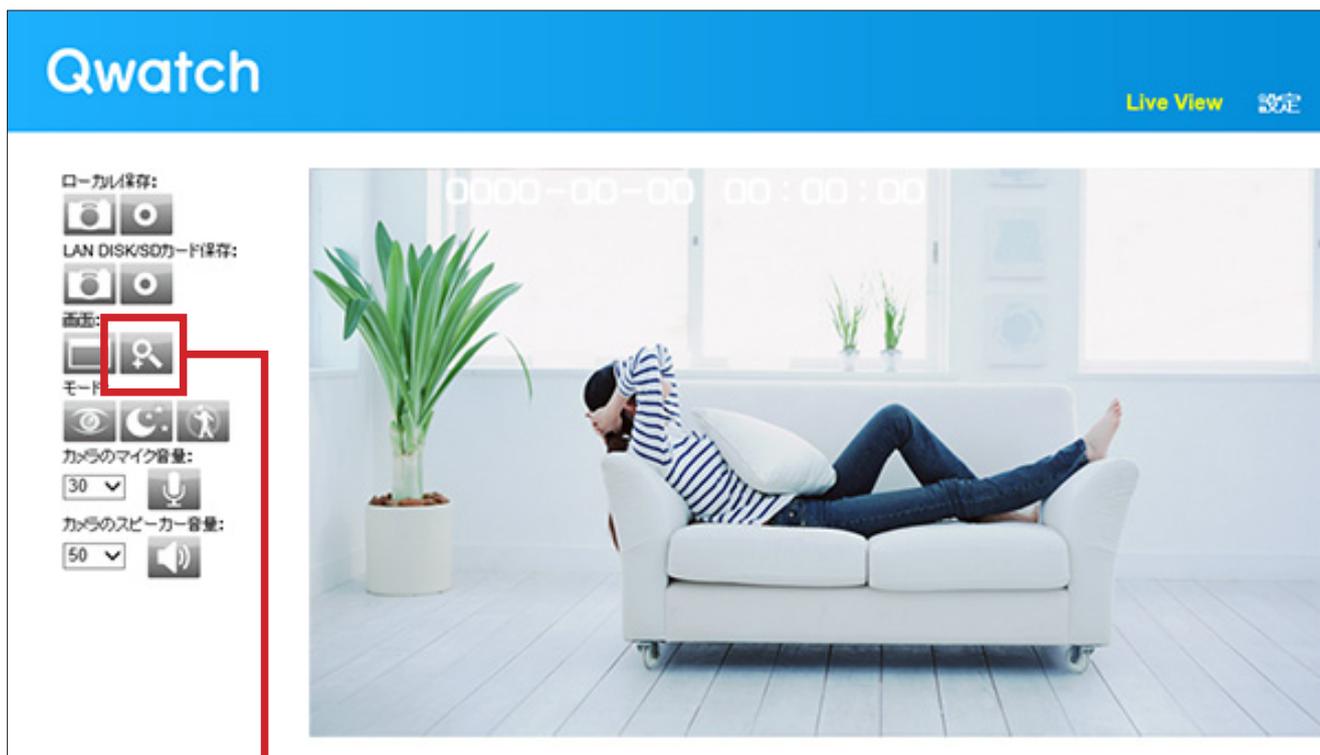


# デジタルズームする

映像を拡大表示する手順を説明します。

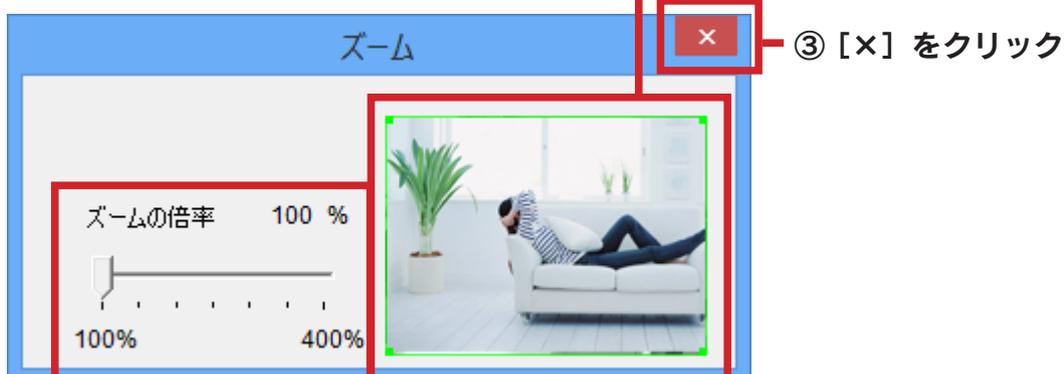
※ 本機能は Internet Explorer でのみご利用可能です。

## 1 ① Internet Explorer で本製品のライブ映像を表示する



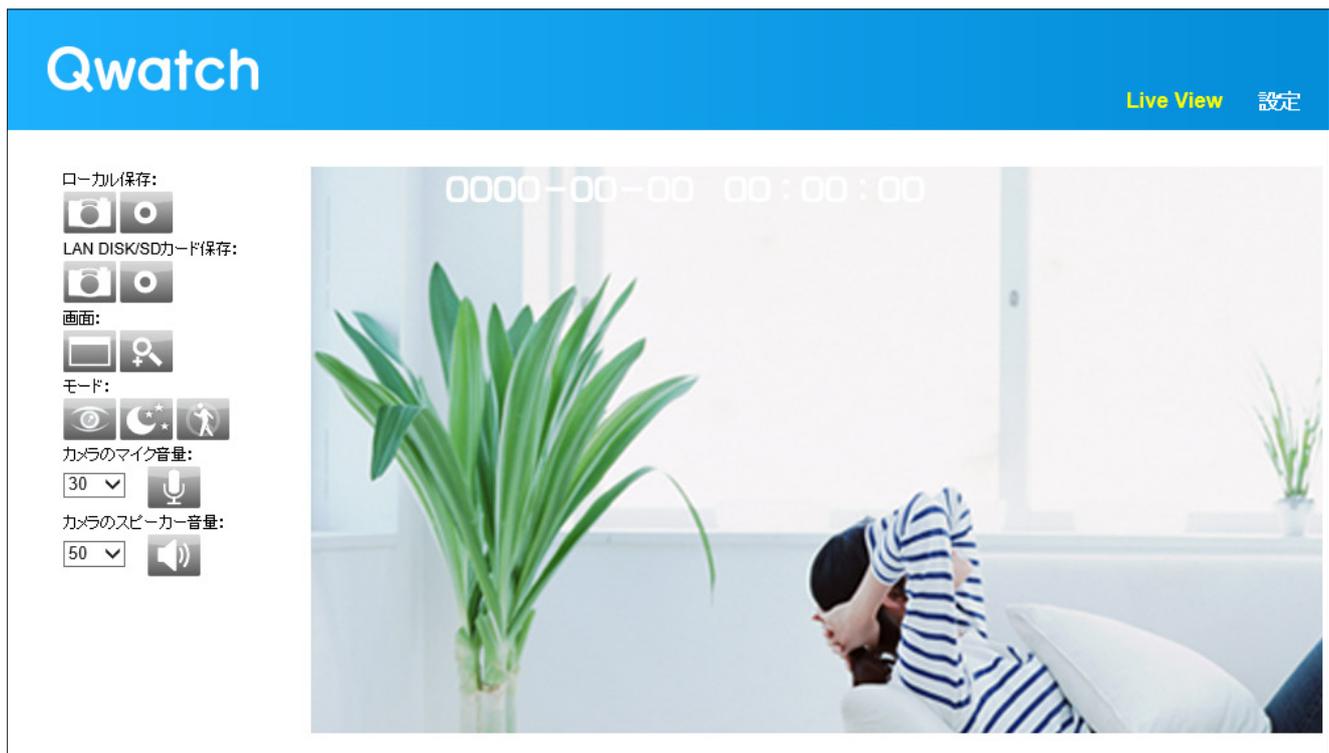
## ② [🔍] (デジタルズーム) アイコンをクリック

## 2 ① マウスでドラッグしてズーム範囲を選択



## ② マウスでドラッグし、拡大率を選択

### 3 拡大表示されたことを確認



以上で、映像の拡大表示は完了です。

# 動作検知モードを利用する

画像の動きを検知し、画像をFTPサーバーに記録したり、メールでお知らせすることができます。  
また、範囲設定をおこなうと、設定した範囲のみの動作検知がおこなえます。

## 動作検知の設定をする

### 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- ① [設定] をクリック
- ② [動作検知] → [動作検知設定] の順にクリック



### ③ [動作検知設定] の各項目を設定

### ④ [設定] をクリック

動作検知設定	
動作検知機能	[有効] を選択します。
動作検知する間隔	動作検知する間隔を選択します。(1/3/5/10/15/20/30/45/60 秒から選択) ※ 例えば 5 秒に設定した場合、本製品は 5 秒ごとに設定した範囲内に動きがあるかを確認します。 ※ 撮影枚数が多くなりすぎた場合は、「動作検知する間隔」を長めに設定すると撮影枚数が減ります。
撮影方法	動作検知した際の撮影方法を、撮影しない、スナップショット（静止画）または動画から選択します。 ※ [動画] を選択した場合、録画できるファイル容量は最大 2MB です。(2MB になると自動で録画を停止します。)
動作検知時の録画時間	動作検知してから何秒間録画するかを選択します。(1/2/3/4/5/10 秒から選択)
メールで通知	動作検知した際の画像をメールに送信する場合は、[有効] を選択します。 ※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。(「メール設定」 P.79 参照)
撮影したファイルの送信先	動作検知した際のファイルの送信先を選択します。

以上で動作検知設定は完了です。動作検知をお試しく下さい。

動作検知範囲やスケジュール、撮影したファイルの送信先の設定をおこなう場合は、以下のページをご参照ください。

▶ 範囲設定する・・・50 ページ

▶ FTP 設定する・・・53 ページ

▶ スケジュール設定する・・・52 ページ

▶ メール設定する・・・54 ページ

## ▶ 範囲設定する

※ 範囲設定には Adobe Flash Player が必要です。

1

① [範囲設定] をクリック

② 以下の画面が表示された場合は、[Adobe Flash Player をダウンロード] をクリック  
⇒ 画面の指示にしたがってインストール



③ Adobe Flash Player のインストールが完了したら、もう一度「設定範囲」メニューをクリック

2

① 映像の上でドラッグし、検知をおこなう範囲を設定

※ 検知対象の範囲を狭くすると、検知精度を上げることができます。

※ 範囲は3つまで設定できます。

※ タイムスタンプを含まないように範囲を設定してください。



② [感度] をドラッグし、  
検知をおこなう感度を設定

※ 感度を上げると、検知しやすくなります。  
検知しすぎる場合は、感度を下げます。

③ [しきい値] をドラッグし、検知をおこなう画像の変化量を設定

※ 値を小さくすると、より小さな変化でも検知することができます。

④ すべての範囲設定をおこなったら、[設定] をクリック



ヒント

### ドアからの人の出入りを検知する場合

- ① ドアの横の領域（人が通る部分）（前ページ画面例のオレンジ部分）を検出範囲として設定します。
  - ※ ドアを範囲に設定するとドアを開く瞬間に検知してしまい、ドアを開けた人の写真が撮影できません。
  
- ② 実際に検知されるかどうか、お試しください。
  - ※ 検知が早すぎる場合は、しきい値を大きくします。それでも検知が早すぎる場合は、感度を小さくします。
  - ※ 検知されない場合は、しきい値を小さくします。それでも検知されない場合は、感度を大きくします。

以上で範囲設定は完了です。動作検知をお試しください。

スケジュール、撮影したファイルの送信先の設定をおこなう場合は、以下のページをご参照ください。

- ▶ FTP 設定する . . . 53 ページ
- ▶ メール設定する . . . 54 ページ
- ▶ スケジュール設定する . . . 52 ページ

## ▶ スケジュール設定する

### 1 ① [スケジュール機能設定] をクリック



### ③ [スケジュール機能設定] の各項目を設定

### ④ [設定] をクリック

スケジュール機能設定	
スケジュール機能	[有効] を選択します。
時間設定	動作検知を開始する時間帯を設定します。 ※ スケジュールの開始と終了は、3分以上に設定してください。

以上でスケジュール設定は完了です。動作検知をお試してください。

撮影したファイルの送信先の設定をおこなう場合は、以下のページをご参照ください。

▶ FTP 設定する・・・53 ページ

▶ メール設定する・・・54 ページ

## ▶ FTP設定する

## 1 ① [FTP 設定] をクリック

## ③ [FTP 設定] の各項目を設定

## ④ [設定] をクリック

FTP 設定	
FTP サーバー名	FTP のサーバー名を入力します。(IP アドレス等)
ユーザー名	FTP のユーザー名を入力します。
パスワード	FTP のパスワード名を入力します。
ポート番号	FTP で使用するポート番号を入力します。(通常 21 番)
パス	FTP サーバー内のフォルダーを指定します。 ※ 下層のフォルダーを設定する場合は、“/” で区切ってください。 ※ フォルダーおよびファイルを含めたフルパスで 256 文字まで入力できます。 ※ 半角英数字で指定します。 (例：disk1 フォルダーの下の TS-WLC2 フォルダーを設定する場合、disk1/TS-WLC2 と入力)
パッシブモード	FTP が正常に通信できていない場合、[有効] を選択します。

## ヒント

「テストファイルを送信」でエラーになってしまう場合は、「困ったときには」 - 「動作検知設定時」、「テストファイルを送信」でエラーになってしまう」112 ページをご参照ください。



以上で FTP 設定は完了です。動作検知をお試しく下さい。

撮影したファイルの送信先の設定をおこなう場合は、以下のページをご参照ください。

▶ メール設定する・・・54 ページ

## ▶ メール設定する

1 ① [基本設定] → [メール設定] の順にクリック

**Qwatch**

- 基本設定
- ネットワーク
- 無線設定
- iobb.net設定
- RTSP
- 時刻設定
- メール設定
- ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定

### メール設定

メールサービス: 手動設定 ▼

SMTPサーバー名:

SMTPポート番号:

宛先メールアドレス:

送信元メールアドレス:

SSL/TLS: なし ▼

SMTP認証:  有効  無効

アカウント:

パスワード:

③ [メール設定] の各項目を設定

④ [設定] をクリック

メール設定	
メールサービス	手動設定 /Yahoo!/Gmail から、送信元メールに対応するメールサービスを選択します。
SMTP サーバー名	[手動設定] の場合は、使用する送信元メールの SMTP サーバー名を入力します。 [手動設定] 以外の場合は、自動的に入力されます。
SMTP ポート番号	[手動設定] の場合は、使用する送信元メールの SMTP ポート番号を入力します。 [手動設定] 以外の場合は、自動的に入力されます。
宛先メールアドレス	送信先メールアドレスを入力します。 (複数の宛先を設定する場合、“;” で区切ってください。最大 127 文字まで可能です。)
送信元メールアドレス	送信元メールアドレスを入力します。
SSL/TLS	送信元メールに対応する暗号化方式を選択します
SMTP 認証	SMTP で認証をおこなう場合には有効にしてください。
アカウント	送信元メールのアカウントを入力します。
パスワード	送信元メールのユーザー名を入力します。

ヒント

「テストメールを送信」でエラーになってしまう場合は、「困ったときには」 - 「動作検知設定時、  
「テストメールを送信」でエラーになってしまう」112 ページをご参照ください。



以上でメール設定は完了です。動作検知をお試しく下さい。

# プライバシーモードを利用する

本製品の映像を公開したくない場合に使用します。

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- 2
- ① [設定] をクリック
  - ② [ビデオ] → [プライバシー] の順にクリック



- ③ [プライバシー設定] の各項目を設定

- ④ [設定] をクリック

プライバシー設定	
プライバシー機能	[有効] を選択します。
表示設定	[暗転] のみ選択できます。
スケジュール機能	スケジュールを設定する場合は [有効] を選択し、開始と終了時間を設定します。 ※ スケジュールの開始と終了は、3分以上に設定してください。

## 2 [Live View] をクリック

- ※ プライバシー機能が [有効]  になっている場合は、 アイコンをクリックして、[無効]  に切り替えることができます。
- ※ 管理権限（ユーザー名：admin）以外でログインしている場合、プライバシーモードアイコンは表示されません。管理権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。



# QRコード生成機能を利用する

視聴期限付き QR コードを作成します。

カメラに接続可能な期間（日時や曜日）を設定することができるため、カメラを公開する際に便利です。作成した QR コードは利用者のスマートフォン等で登録します。

## 1. QRコードを作成する

### 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

### 2 ① [設定] をクリック

### ② [QRコード管理] をクリック ③ [作成開始] をクリック



### 3 ① [ログイン用 QR コードの作成] の各項目を設定

The screenshot shows the 'ログイン用 QRコードの作成' (Create QR Code for Login) form. The form is titled 'ログイン用 QRコードの作成' and contains several input fields and checkboxes. The fields are: 'MACアドレス' (MAC Address), 'カメラ製品型番' (Camera Model Number), 'ホスト名' (Host Name), '視聴期間 開始' (Viewing Period Start), and '終了' (End). The '開始' field is set to 2013年9月24日13時, and the '終了' field is set to 2013年10月25日23時. Below these fields are checkboxes for '許可する曜日' (Allow Days of the Week) for '月' (Monday), '火' (Tuesday), '水' (Wednesday), '木' (Thursday), '金' (Friday), '土' (Saturday), and '日' (Sunday), all of which are checked. The '作成' (Create) button is highlighted with a red box. Red lines connect the numbered steps to these elements.

### ② [作成] をクリック

ログイン用 QR コードの作成	
MAC アドレス	本製品の MAC アドレスを入力します。
カメラ製品型番	本製品の型番を選択します。
ホスト名	本製品に添付の「かんたん接続シート」に記載の iobb.net の [ホスト名] を入力します。
視聴期間開始	カメラ映像を見ることができるようになる日時を選択します。
終了	カメラ映像が見られなくなる日時を選択します。
許可する曜日	設定した視聴期間内でカメラ映像を見ることができる曜日を選択します。

#### 4 表示された QR コードを、以下の方法でカメラの利用者に配布する

- ・ QR コード画面を利用者に見せる
- ・ QR コードの画面を印刷する
- ・ QR コードの画面をコピー（画面を保存）してメールで送る

### ログイン用QRコード 作成完了

QRコードの発行が完了しました。



戻る

以上で QR コードの作成は完了です。

作成した QR コードは利用者のスマートフォン等で登録します。「2. カメラを登録する」59 ページへお進みください。

## 2.カメラを登録する

作成した QR コードで利用者がカメラを登録する手順を説明します。

※ iPhone/iPad/iPod touch は、iOS 6.0 以降かつカメラ付モデルに対応しています。

※ Android OS は、Ver 4.0 以降に対応しています。（オートフォーカス機能のあるカメラを搭載した端末を推奨します。）

※ カメラ非搭載機種の場合は、作成した視聴制限付き QR コードはご利用いただけません。

※ 本手順（QR コネクト+）でカメラを登録すると、オペレーター権限になります。

※ 以下、画面例は iOS 7 です。

### 1 【QwatchView】をインストールする

※ iOS の場合：AppStore から QwatchView を検索してインストール

※ Android の場合：[Play ストア]（Google Play）または

[Android マーケット] から QwatchView を検索してインストール



### 2 【QwatchView】を開く

### 3 【編集】 → 【登録】 → 【QR コネクト+で登録】 → 【読み取り開始】の順にタップ



#### 4 QRコードを読み取り範囲内にかざして読み込む



- 5 ① iOS の場合：[登録] をタップ  
Android の場合：端末の戻るボタンをタップ

- ② [完了] をタップ



本製品の映像が表示されます。以上でカメラの登録は完了です。  
以降は、「QwatchView」を起動するだけで、モニタリングできます。

ヒント

「QwatchView」の使用方法については、弊社Webページより「QwatchView」の画面で見るマニュアルをご覧ください



➔ <http://www.iodata.jp/lib/manual/pdf2/qwatchview.pdf>

## 詳細設定

---

IPアドレスの変更方法 .....	62 ページ
管理者パスワードの変更方法 .....	63 ページ
ユーザー権限を追加/編集/削除する方法 .....	64 ページ
ファームウェアのバージョンアップ方法 .....	68 ページ
出荷時設定に戻す方法.....	71 ページ

# IPアドレスの変更方法

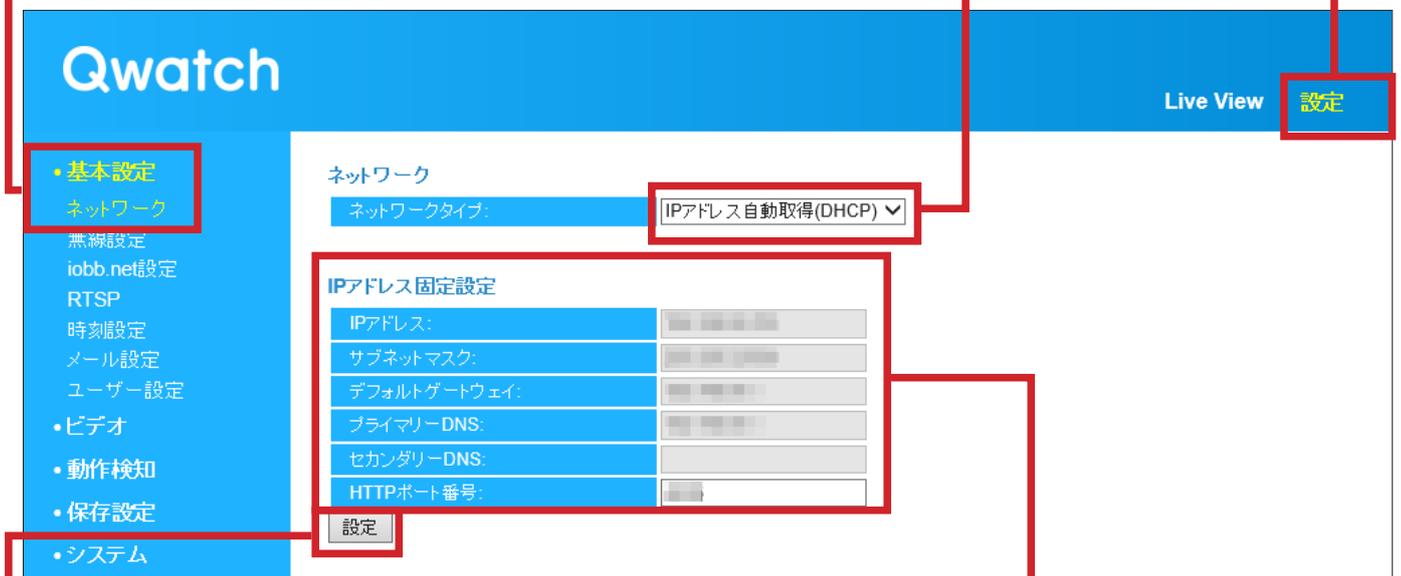
本製品の IP アドレスを自動取得（DHCP）または固定設定に変更する方法を説明します。

※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンから設定画面を開いて設定します。

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- ## 2
- ① **【設定】** をクリック
  - ② **【基本設定】** → **【ネットワーク】** の順にクリック
  - ③ **【ネットワークタイプ】** を選択



- ④ ネットワークタイプで **【IP アドレス固定設定】** を選択した場合、  
**【IP アドレス固定設定】** 内の各項目を設定

- ⑤ **【設定】** をクリック

IP アドレス固定設定	
IP アドレス	IP アドレスを入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
プライマリー DNS	使用する DNS を入力します。
セカンダリー DNS	使用する DNS を入力します。
HTTP ポート番号	本製品が使用するポート番号を入力します。

以上で IP アドレスの設定は完了です。

# 管理者パスワードの変更方法

セキュリティのため、管理者権限のパスワードは出荷時設定より変更することをお勧めします。

※ 出荷時設定：本製品の MAC アドレス

※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンから設定画面を開いて設定します。

※ 管理者以外の権限のパスワード変更については、「ユーザー権限を追加 / 編集 / 削除する方法」64 ページご参照ください。

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

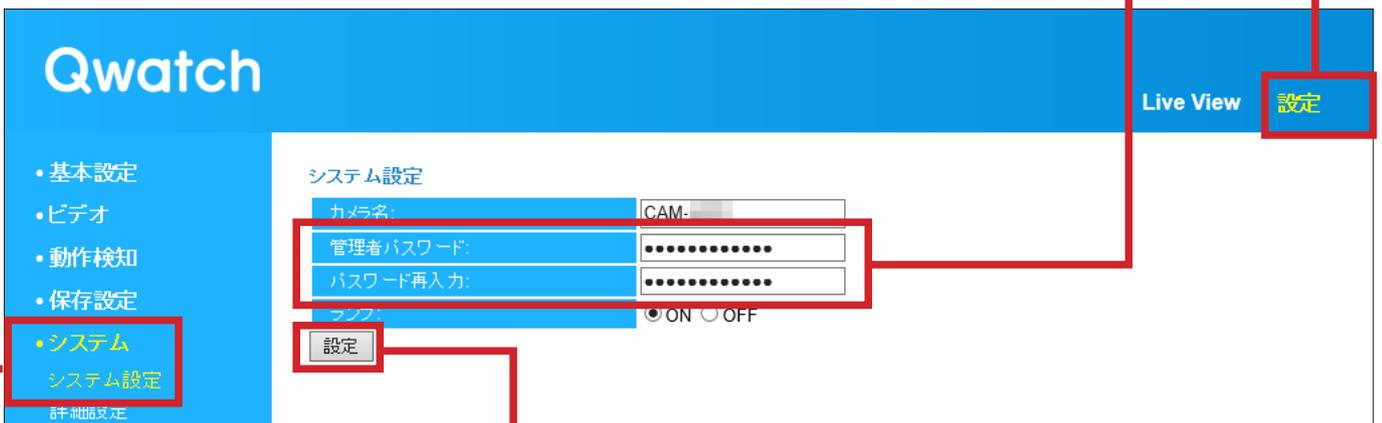
※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

## 2 ① [設定] をクリック

② [システム] → [システム設定] の順にクリック

③ [管理者パスワード] と [パスワード再入力] に同じパスワードを入力

※ 半角英数字で入力



⑤ [設定] をクリック

以上で管理者パスワードの変更は完了です。

# ユーザー権限を追加/編集/削除する方法

本製品のユーザー権限の追加や削除、パスワード等の変更をおこなう方法を説明します。

※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンから設定画面を開いて設定します。

※ 管理者権限の追加や削除はおこなえません。また管理者権限のパスワード変更は「管理者パスワードの変更方法」63 ページをご参照ください。

※ 出荷時状態で登録されているオペレーターのユーザーを、削除または編集すると、「QR コネクト +」が使用できなくなります。

ヒント



## ユーザー権限の使用権限について

カメラは出荷時状態で、管理者権限、オペレーター権限が1つずつ設定されています。管理者以外のユーザー権限では使用に制限があります。

ユーザー権限	ユーザー名	パスワード	使用制限
管理者	admin	本製品の MAC アドレス (出荷時設定)	制限なし
オペレーター	カメラに添付の「かんたん接続シート」に記載 (出荷時設定)		本製品の映像設定、表示設定のみ使用できます。
ゲスト	出荷時未設定		本製品の設定画面を開くことができません。

# ユーザー権限を追加する

## 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

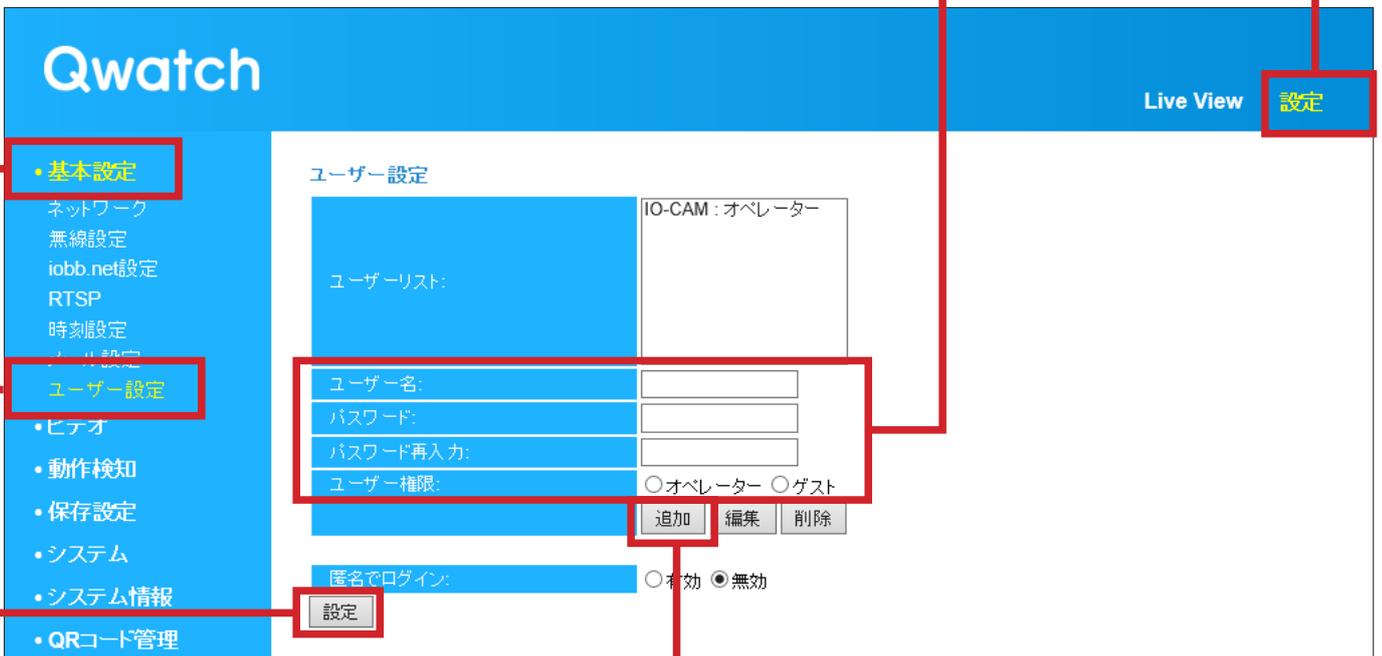
### 2 ① [設定] をクリック

② [基本設定] → [ユーザー設定] の順にクリック

③ [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワード再入力] を入力

※ 半角英数字、1～63文字まで

④ [ユーザー権限] を選択



⑤ [追加] をクリック

⑥ [設定] をクリック

以上でユーザー権限の追加は完了です。

## ユーザー権限の内容を編集する

### 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

### 2 ① [設定] をクリック

② [基本設定] → [ユーザー設定] の順にクリック

③ [ユーザーリスト] よりユーザー名を選択

④ [パスワード]、[パスワード再入力] を入力

※ 半角英数字、1～63文字まで

⑤ [ユーザー権限] を選択

⑥ [編集] をクリック

⑦ [設定] をクリック

以上でユーザー権限の編集は完了です。

## ユーザー権限を削除する

### 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

### 2 ① [設定] をクリック

② [基本設定] → [ユーザー設定] の順にクリック

③ [ユーザーリスト] よりユーザー名を選択

④ [削除] をクリック

⑤ [設定] をクリック

以上でユーザー権限の削除は完了です。

# ファームウェアのバージョンアップ方法

本製品のファームウェアのバージョンアップ方法を説明します。

- ※ 本製品を一旦、有線 LAN ルーターに接続して設定してください。
- ※ 本製品と同じネットワーク上にあるパソコンから設定画面を開いて設定します。
- ※ 録画中の場合は、停止してからファームウェアのバージョンアップをおこなってください。

注意

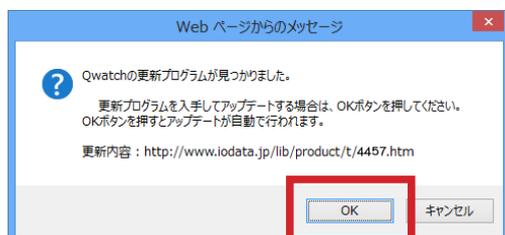
ファームウェアのアップデート中に本製品の電源を切らないでください。

本製品が故障します。

## 自動更新する場合（出荷時設定）

ファームウェアの自動更新が【有効】になっている場合は、1日1回、最新版のファームウェアがないかチェックし、自動的に更新をおこないます。

以下のメッセージが表示された場合は【OK】をクリックし、更新してください。（インターネット接続環境が必要です）



## 手動更新する場合

自動更新を【無効】に設定している場合または手動でバージョンアップをおこなう場合は、本手順で更新してください。

- 1 Web ブラウザーを起動して以下の URL を入力またはクリックする  
⇒ 最新のファームウェアファイルをダウンロードし、ファイルを解凍しておきます。

<http://www.iodata.jp/r/4457>

- 2 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する  
※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

3

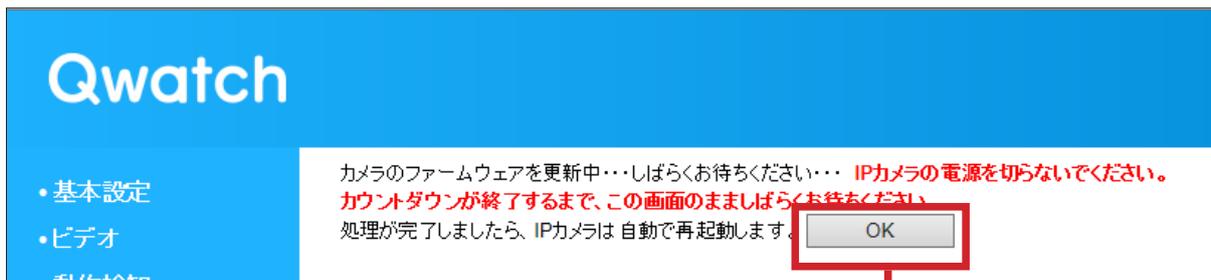
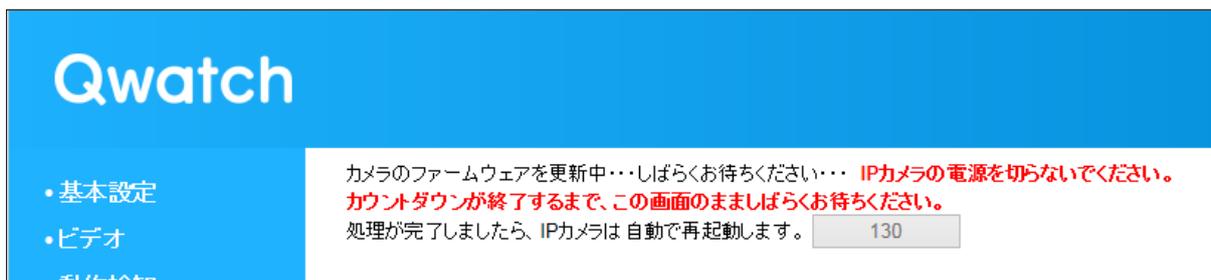
- ① [設定] をクリック
- ② [システム] → [詳細設定] の順にクリック
- ③ [参照] をクリックし、手順 1. で解凍したファームウェアのアップデートファイル [xxxxxxx.bin] (xxxxxxx は英数字) の場所を指定



- ④ [更新] をクリック

4

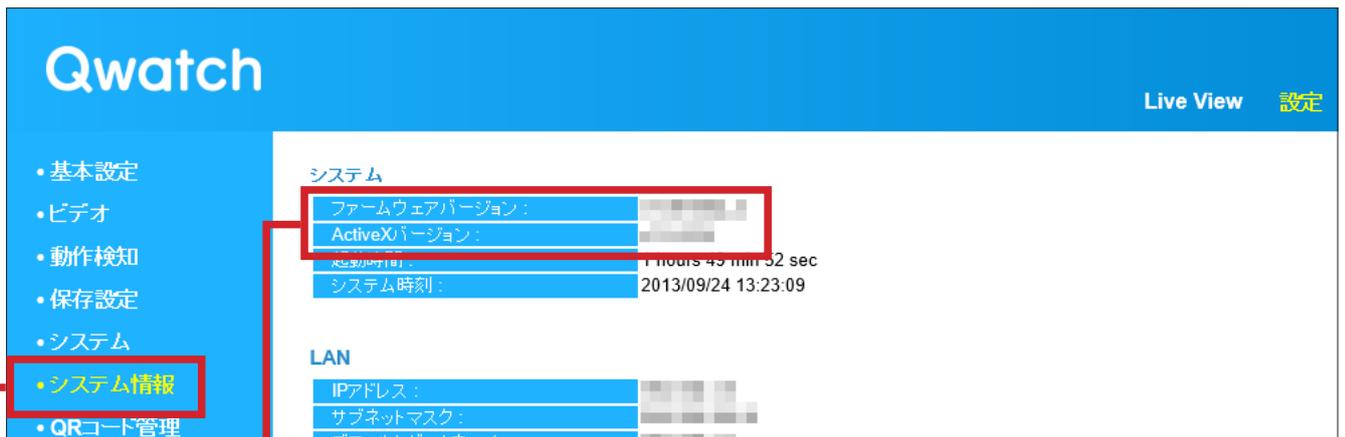
- ① カウントダウンが終了するまで待つ



- ② [OK] をクリック

5

① 【システム情報】 をクリック



② ファームウェアバージョンが更新されていることを確認

③ Internet Explorer をご利用の場合は、ActiveX のバージョンが最新であることを確認

※ [コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール] にある  
[Internet Camera ActiveX x.x.x.x] のバージョンと一致していることを確認します。  
(x には数字が入ります)

以上でファームウェアのバージョンアップは完了です。

ヒント

Internet Explorer をご利用の場合で ActiveX のバージョンが最新ではない場合は、以下の手順で ActiveX をインストールしなおしてください。



- ① [コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール] を開き、[Internet Camera ActiveX x.x.x.x] を削除します。(x には数字が入ります)
- ② 本製品にアクセスし、[ActiveX のダウンロード] をクリックしてインストールします。  
(「同じネットワーク上から本製品にアクセスする」 P.22 参照)

# 出荷時設定に戻す方法

本製品を出荷時設定に戻す方法を説明します。

本製品の設定画面または [WPS/ 初期化スイッチ] のいずれかの方法で戻すことができます。

## 設定画面で戻す場合

### 1 WEB ブラウザーで本製品のライブ映像を表示する

※ 管理者権限（ユーザー名：admin）でログインしてください。

- 2
- ① [設定] をクリック
  - ② [システム] → [詳細設定] の順にクリック



### ③ [出荷時設定] を選択

※ [基本設定] メニューの [ネットワーク] メニュー内にある設定を保持し、その他の設定を出荷時設定に戻したい場合は、[ネットワーク設定を保持] を選択します。

### ④ [初期化] をクリック

本製品が再起動します。

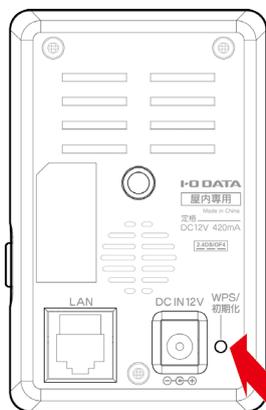
以上で出荷時設定に戻りました。

## 本製品の [WPS/初期化スイッチ] で戻す方法

### 1 本製品から LAN ケーブルを外す

※ 電源は入れた状態で操作します。

### 2 ① 本製品の [WPS/ 初期化スイッチ] を細いピンなどで約 10 秒間押す



① 本製品の [WPS/ 初期化スイッチ] を細いピンなどで約 10 秒間押す



② POWER ランプ  が点滅したらピンを離す

③ すべてのランプが点灯に変わるまで待つ

本製品が再起動します。

以上で出荷時設定に戻りました。

# 設定画面のリファレンス

---

基本設定 .....	74 ページ
ビデオ .....	81 ページ
保存設定 .....	90 ページ
システム .....	95 ページ
システム情報 .....	97 ページ
QRコード管理.....	98 ページ

# 基本設定

## ネットワーク

Qwatch Live View 設定

- 基本設定
- ネットワーク
- 無線設定
- iobb.net設定
- RTSP
- 時刻設定
- メール設定
- ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- システム

ネットワーク

ネットワークタイプ: IPアドレス自動取得(DHCP) ▼

IPアドレス固定設定

IPアドレス:

サブネットマスク:

デフォルトゲートウェイ:

プライマリーDNS:

セカンダリーDNS:

HTTPポート番号:

設定

ネットワーク設定	
ネットワークタイプ	本製品の IP アドレスの設定方法を、IP アドレス自動取得 (DHCP) /IP アドレス固定設定から選択します。 ※ ネットワークの設定にあわせて設定します。
IP アドレス固定設定 ※上記「ネットワークタイプ」で「IP アドレス固定設定」を選択した場合のみ以下を設定します。	
IP アドレス	IP アドレスを設定します。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します。
プライマリー DNS	使用する DNS を設定します。
セカンダリー DNS	使用する DNS を設定します。
HTTP ポート番号	本製品が使用するポート番号を設定します。

## 無線設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
  - ネットワーク
  - 無線設定
  - iobb.net設定
  - RTSP
  - 時刻設定
  - メール設定
  - ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- システム
- システム情報
- QRコード管理

### 無線設定

無線LAN接続:	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
ネットワークタイプ:	インフラストラクチャ
モード:	2.4GHz (B+G+N)
使用する帯域:	20/40 MHz
無線LANの検索:	<input type="button" value="検索"/> <span style="font-size: small;">検索ボタンを押してアクセスポイントのリストを表示してください。</span>
SSID:	<input type="text"/>
チャンネル:	自動
暗号化方式:	WPA2-PSK(AES)
プレシェアードキー:	<input type="text" value="*****"/>
WEPキーの種類:	16進
WEPキーの長さ:	64-Bit
デフォルトキー:	1
WEPキー 1:	<input type="text"/>
WEPキー 2:	<input type="text"/>
WEPキー 3:	<input type="text"/>
WEPキー 4:	<input type="text"/>

### WPS

無線設定			
無線 LAN 接続	有効 / 無効を選択します。		
ネットワークタイプ	無線接続モードを設定します。インフラストライクチャモードのみ選択可能です。		
モード	接続する通信規格を選択します。		
使用する帯域	使用する帯域を選択します。		
無線 LAN の検索	[検索] 押すと、無線 LAN ルーターを検索します。		
SSID	接続する無線 LAN ルーターの SSID を入力します。		
チャンネル	接続する無線 LAN ルーターのチャンネル (自動のみ) が表示されます。 ※選択はできません。		
暗号化方式	接続する無線 LAN ルーターの暗号化方式を選択します。		
プレシェアードキー	暗号化方式が [WPA-PSK(TKIP)] または [WPA2-PSK(AES)] の場合、暗号キーを入力します。 ※ 8 ~ 63 文字の ASCII 文字		
WEP キーの種類	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーの種類 (16 進 /ASCII) を選択します。		
WEP キーの長さ	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーの長さ (64Bit/128Bit) を選択します。		
デフォルトキー	暗号化方式が [WEP] の場合、WEP キーのデフォルトキー番号を選択してください。		
WEP キー 1 ~ 4	暗号化方式が [WEP] の場合、暗号キーを入力します。デフォルトキーで選択されたキーを入力してください。 ※ 16 進 (16 進数) の場合は 0 ~ 9 または A ~ F の文字列 ※ ASCII の場合は半角英数字		
		ASCII	16 進
	64-Bit	10 文字	5 文字
	128-Bit	26 文字	13 文字
WPS			
プッシュボタン設定	プッシュボタンを押して WPS 接続をおこないます。 ※ [PBC 開始] を押した後、2 分間待ちます。		

## iobb.net設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
  - ネットワーク
  - 無線設定
  - iobb.net設定
  - RTSP
  - 時刻設定
  - メール設定
  - ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定

### iobb.net設定

**iobb.net:**  プリセット  有効  無効

ダイナミックDNSサービス利用登録規約

この規約は、株式会社アイ・オー・データ機器(以下、弊社という)が提供するダイナミックDNSサービス(以下「本サービス」)を利用する際の条件 並びにお客様(以下、利用者という)が本サービスをご利用の結果収集される利用者情報の取扱いを定めたものです。

**ホスト名:**  .iobb.net

**ステータス:** 正しく設定されました。

**UPnP機能:**  有効  無効

iobb.net 設定				
iobb.net	プリセット / 有効 / 無効を選択します。 (出荷時設定：プリセット) ※ [有効] または [無効] にすると、スマートフォン / タブレットから QR コネクト + でカメラを登録することができません。			
シリアルナンバー	本製品のシリアル番号 (S/N) を入力します。 ※ 大文字英数字 12 桁 ※ シリアル番号 (S/N) は ユーザー ID に該当します。 ※ 本製品のシリアル番号 (S/N) は、本製品背面に貼られているシールにある英数字です。(例：ABC1234567ZX)			
パスワード	iobb.net に登録したパスワードを入力します。 ※ 使用可能な文字数は、6 ~ 8 文字 ※ 事前に WEB ブラウザーより「http://ioportal.iodata.jp/」にアクセスし、iobb.net のユーザー登録をおこなってください。			
ホスト名	iobb.net に登録したホスト名を入力します。 ※ xxx.iobb.net の場合、「xxx」のみ入力します。 ※ 出荷時設定：wcam- (半角英数字 7 文字) .iobb.net			
ステータス	現在の状態が表示されます。 ※ [設定] をクリック後、ステータスが反映されるまで、しばらく時間がかかります。			
UPnP 機能	有効 / 無効を選択します。			
	<table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">有効</td> <td>UPnP 対応ルーターの UPnP 機能を利用して、ルーターへ接続します。</td> </tr> <tr> <td>無効</td> <td>ルーターのポートフォワーディングの設定を手動でおこなってください。 ルーターが UPnP に非対応の場合は無効にしてください。</td> </tr> </table>	有効	UPnP 対応ルーターの UPnP 機能を利用して、ルーターへ接続します。	無効
有効	UPnP 対応ルーターの UPnP 機能を利用して、ルーターへ接続します。			
無効	ルーターのポートフォワーディングの設定を手動でおこなってください。 ルーターが UPnP に非対応の場合は無効にしてください。			

## RTSP

Qwatch
Live View 設定

• 基本設定  
[ネットワーク](#)  
[無線設定](#)  
[iobb.net設定](#)  
RTSP  
[時刻設定](#)  
[メール設定](#)

### RTSP設定

RTSPポート:	<input type="text"/>
MJPEG RTSP Path:	<input type="text" value="ipcam_mjpeg"/> .sdp
H.264 RTSP Path:	<input type="text" value="ipcam_h264"/> .sdp
アクセス制限:	制限あり ▼

RTSP 設定	
RTSP ポート	カメラ映像を配信するポートを設定します。 Internet Explorer と QwatchView は、設定した RTSP ポート番号を使用して映像を表示します。 ※ 手でポートを開放される場合は、本ポート番号の開放も忘れずにおこなってください。
MJPEG RTSP Path	MJPEG の映像配信に使用するパスを変更できます。 (例) rtsp:// IP:port 番号 / [ 変更したパス ] .sdp
H.264 RTSP Path	H264 の映像配信に使用するパスを変更できます。 (例) rtsp:// IP:port 番号 / [ 変更したパス ] .sdp
アクセス制限	設定した RTSP Path へアクセスした場合に、ユーザ認証をおこなうかどうかを設定します。 [有効] の場合、ユーザ認証をおこないます。 ※ 既にブラウザーまたは QwatchView からログインをおこなっている場合は、再度ユーザ認証を聞かれることはありません。

## 時刻設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ネットワーク
- 無線設定
- iobb.net設定
- RTSP
- 時刻設定
- メール設定
- ユーザー設定

### 時刻設定

モード:  NTPサーバーとの同期  手動設定

日時設定:  /  /   :  :

NTPサーバー:

時刻設定		
モード	時刻の設定方法を選択します。	
	NTPサーバーとの同期	NTPサーバーより時間を取得し、時間を設定します。
	手動設定	手動で時間を設定します。時間は電源を入れなおした場合、リセットされます。
日時設定	モードで〔手動設定〕を選択した場合、日時を入力します。 〔PCの時刻に設定〕を押すと、パソコンの時刻が入力されます。	
NTPサーバー	NTPサーバーのURLまたはIPアドレスを入力します。	

# メール設定

## Qwatch

[Live View](#)
[設定](#)

- **基本設定**
- ネットワーク
- 無線設定
- iobb.net設定
- RTSP
- 時刻設定
- メール設定
- ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定

### メール設定

メールサービス:	手動設定 ▼
SMTPサーバー名:	<input type="text"/>
SMTPポート番号:	<input type="text"/>
宛先メールアドレス:	<input type="text"/>
送信元メールアドレス:	<input type="text"/>
SSL/TLS:	なし ▼
SMTP認証:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アカウント:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="text"/>

メール設定	
メールサービス	手動設定 /Yahoo!/Gmail から、送信元メールに対応するメールサービスを選択します。
SMTPサーバー名	[手動設定] の場合は、使用する送信元メールのSMTPサーバー名を入力します。 [手動設定] 以外の場合は、自動的に入力されます。
SMTPポート番号	[手動設定] の場合は、使用する送信元メールのSMTPポート番号を入力します。 [手動設定] 以外の場合は、自動的に入力されます。
宛先メールアドレス	画像の送信先メールアドレスを入力します。 (複数の宛先を設定する場合、“;” で区切ってください。最大 127 文字まで可能です。)
送信元メールアドレス	送信元メールアドレスを入力します。
SSL/TLS	送信元メールに対応する暗号化方式を選択します。
SMTP認証	SMTPで認証をおこなう場合には有効にしてください。
アカウント	送信元メールのアカウントを入力します。
パスワード	送信元メールのパスワードを入力します。

# ユーザー設定

Qwatch
Live View 設定

- **基本設定**
  - ネットワーク
  - 無線設定
  - iobb.net設定
  - RTSP
  - 時刻設定
  - メール設定
  - ユーザー設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- システム
- システム情報
- QRコード管理

### ユーザー設定

ユーザーリスト:

IO-CAM : オペレーター

ユーザー名:	
パスワード:	
パスワード再入力:	
ユーザー権限:	<input type="radio"/> オペレーター <input type="radio"/> ゲスト

追加
編集
削除

匿名でログイン:

有効    無効

設定

ユーザー設定				
ユーザーリスト	登録されているユーザー名とユーザー権限を表示します。			
ユーザー名	ユーザー名を入力します。 ※ 半角英数字、1～63文字まで			
パスワード	パスワードを入力します。 ※ 半角英数字、1～63文字まで			
パスワード再入力	パスワードを再入力します。 ※ 半角英数字、1～63文字まで			
ユーザー権限	ユーザー権限（オペレーター/ゲスト）を選択します。			
	ユーザー権限	ユーザー名	パスワード	使用制限
	管理者	admin	出荷時設定：本製品の MAC アドレス	制限なし
	オペレーター	出荷時設定：添付の「かんたん接続シート」に記載		本製品の映像設定、表示設定のみ使用できません。
ゲスト	出荷時未設定		本製品の設定画面を開くことができません。	
匿名でログイン	有効/無効を選択します。 有効にすると、ユーザー名やパスワードを入力せずに本製品の映像を見ることができます。			

※ 出荷時状態で登録されているオペレーターのユーザーを、削除または編集すると、「QR コネクト +」が使用できなくなります。

# ビデオ

## 映像設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
  - 映像設定
  - 表示設定
  - 暗視設定
  - プライバシー設定
  - 音量設定
- 動作検知
- 保存設定

**映像設定**

フォーマット：	<input type="radio"/> H264 <input checked="" type="radio"/> MJPEG
解像度：	VGA (640 x 480) ▼
画質：	普通 ▼
最大フレームレート：	15 ▼
周波数：	東日本(50Hz) ▼
カメラ設置角度：	0° ▼
タイムスタンプ：	ON ▼

実際のフレームレートは、ネットワークの状態や設置環境の明るさに応じて変化します。

映像設定					
フォーマット	カメラ映像のファイル形式を H264/MJPEG から選択します。 ※ H264 に対応していないブラウザでは、MJPEG で表示されます。また、HD の解像度を選択した場合、動作検知が無効になります。				
解像度	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border: 1px solid #ccc;">フォーマットで「H264」を選択した場合</td> <td style="border: 1px solid #ccc;">HD(1280x720)/VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid #ccc;">フォーマットで「MJPEG」を選択した場合</td> <td style="border: 1px solid #ccc;">VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。</td> </tr> </table>	フォーマットで「H264」を選択した場合	HD(1280x720)/VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。	フォーマットで「MJPEG」を選択した場合	VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。
フォーマットで「H264」を選択した場合	HD(1280x720)/VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。				
フォーマットで「MJPEG」を選択した場合	VGA(640x480)/QVGA(320x240) から選択します。				
画質	フォーマットで「MJPEG」を選択した場合に設定します。 最高 / 高 / 普通 / 低 / 最低から選択します。				
最大ビットレート	フォーマットで「H264」を選択した場合、最大ビットレートを選択します。				
最大フレームレート	最大フレームレートを選択します。 ※ 実際のフレームレートは、ネットワークの状態や設置環境の明るさに応じて変化します。 ※ 最大フレーム レートを“5” に設定すると、画面がちらついて見える場合があります。その場合は、最大フレームレートをあげてください。				
周波数	東日本 (50Hz) / 西日本 (60Hz) から選択します。				
カメラ設置角度	0° / 180° から選択します。 天井などに設置した場合 (逆さまに設置した場合) は 180° を選択します。				
タイムスタンプ	ON/OFF から選択します。 ライブ映像に日時情報を表示しない場合は、OFF を選択します。				

## 表示設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
  - 映像設定
  - 表示設定
  - 暗視設定
  - プライバシー設定
  - 音量設定
- 動作検知
- 保存設定
- システム
- システム情報
- QRコード管理

**表示設定**



輝度： 6

コントラスト： 6

彩度： 6

鮮明度： 6

表示設定	
輝度	映像の明るさを設定します。
コントラスト	明暗の差を設定します。
彩度	映像の色の濃さを設定します。
鮮明度	映像の鮮やかさを設定します。

## 暗視設定

The screenshot shows the Qwatch settings interface. At the top left is the 'Qwatch' logo. On the right, there are links for 'Live View' and '設定' (Settings). A left-hand navigation menu lists: '基本設定' (Basic Settings), 'ビデオ' (Video), '映像設定' (Image Settings), '表示設定' (Display Settings), and '暗視設定' (Night Vision). The '暗視設定' section is active and shows the '自動切り替え機能' (Automatic Switching Function) set to '有効' (On) with radio buttons for '有効' and '無効' (Off). A '設定' (Settings) button is located below the radio buttons.

暗視設定	
自動切り替え機能	有効 / 無効を選択します。 [有効] を選択すると、周りの明るさを感知し、自動的に暗視モードに切り替わります。

# プライバシー設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- **ビデオ**
- 映像設定
- 表示設定
- 暗視設定
- プライバシー設定**
- 音量設定

### プライバシー設定

プライバシー機能: 有効 無効

表示画面: 暗転 ▼

スケジュール機能: 有効 無効

時間設定: 開始 00 ▼ : 00 ▼ ~ 終了 00 ▼ : 00 ▼

設定

プライバシー設定	
プライバシー機能	有効 / 無効を選択します。
表示設定	[暗転] のみ選択できます。
スケジュール機能	スケジュールを設定する場合は [有効] を選択し、時間を設定します。
時間設定	スケジュール機能の有効時、プライバシー機能を有効にする時間を設定します。 ※ スケジュールの開始と終了は、3分以上に設定してください。

## 音量設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
  - 映像設定
  - 表示設定
  - 暗視設定
  - プライバシー設定
  - 音量設定

### 音量設定

ミュート:  ON  OFF

音量:  ▼

スピーカー出力:  ▼

音量設定	
ミュート	ON/OFF を選択します。ON にすると本製品のマイクを消音にします。
音量	本製品のマイクの音量を設定します。
スピーカー出力	本製品のスピーカーの音量を設定します。

# 動作検知

## 動作検知設定

### Qwatch

Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知**
  - 動作検知設定
  - 範囲設定
  - スケジュール機能設定
  - FTP設定
- 保存設定

#### 動作検知設定

動作検知機能:	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
動作検知する間隔:	5秒 ▼
撮影方法:	スナップショット ▼
動作検知時の録画時間:	1秒 ▼
メールで通知:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
撮影したファイルの送信先:	指定した保存先(LAN DISK/SDカード) ▼

設定

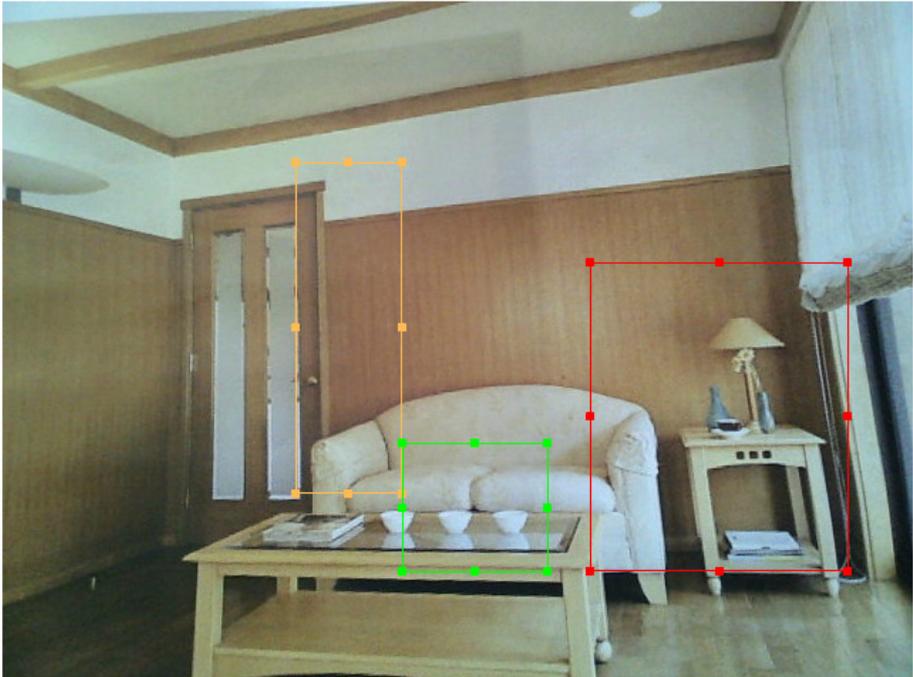
動作検知設定	
動作検知機能	有効 / 無効を選択します。
動作検知する間隔	動作検知する間隔を選択します。(1/3/5/10/15/20/30/45/60 秒から選択) ※ 例えば 5 秒に設定した場合、本製品は 5 秒ごとに設定した範囲内に動きがあるかを確認します。 ※ 撮影枚数が多くなりすぎた場合は、「動作検知する間隔」を長めに設定すると撮影枚数が減ります。
撮影方法	動作検知した際の撮影方法を、撮影しない、スナップショット（静止画）または動画 から選択します。 ※ [動画] を選択した場合、録画できるファイル容量は最大 2MB です。(2MB になると自動で録画を停止します。)
動作検知時の録画時間	動作検知してから何秒間録画するかを選択します。(1/2/3/4/5/10 秒から選択)
メールで通知	動作検知した際の画像をメールに送信する場合は、[有効] を選択します。 ※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。(「メール設定」P.79 参照)
撮影したファイルの送信先	動作検知した際の画像の送信先を選択します。

# 範囲設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- **動作検知**
  - 動作検知設定
  - 範囲設定**
  - スケジュール機能設定
  - FTP設定
- 保存設定
- システム
- システム情報
- QRコード管理

**範囲設定**



**範囲1**  
 感度  90  
 しきい値  3

**範囲2**  
 感度  90  
 しきい値  3

**範囲3**  
 感度  90  
 しきい値  3

範囲設定	
範囲	検知する範囲を設定します。 ※ 検知対象の範囲を狭くすると、検知精度を上げることができます。 ※ 範囲は3つまで設定できます。
感度	検知する感度の設定をします。 ※ 感度を上げると、検知しやすくなります。検知しすぎる場合は、感度を下げます。
しきい値	検知する画像の変化量を設定します。 ※ 値を小さくすると、より小さな変化でも検知することができます。

# スケジュール機能設定

Qwatch
Live View [設定](#)

- 基本設定
- ビデオ
- **動作検知**
  - 動作検知設定
  - 範囲設定
  - スケジュール機能設定
  - FTP設定

### スケジュール機能設定

スケジュール機能:  有効  無効

時間設定: 開始  :  ~ 終了  :

スケジュール機能設定	
スケジュール機能	有効 / 無効を選択します。
時間設定	動作検知をおこなう時間帯を設定します。 ※ スケジュールの開始と終了は、3分以上に設定してください。

## FTP設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
  - 動作検知設定
  - 範囲設定
  - スケジュール機能設定
  - FTP設定
- 保存設定

### FTP設定

FTPサーバー名:	<input type="text"/>
ユーザー名:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="text"/>
ポート番号:	<input type="text"/>
パス:	<input type="text"/>
パッシブモード:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

FTP 設定	
FTP サーバー名	FTP のサーバー名を入力します。(IP アドレス等)
ユーザー名	FTP のユーザー名を入力します。
パスワード	FTP のパスワード名を入力します。
ポート番号	FTP で使用するポート番号を入力します。(通常 21 番)
パス	FTP サーバー内のフォルダーを指定します。 ※ 下層のフォルダーを設定する場合は、“/” で区切ってください。 ※ フォルダーおよびファイルを含めたフルパスで 256 文字まで入力できます。 ※ 半角英数字で指定します。 (例 : disk1 フォルダーの下の TS-WLC2 フォルダーを設定する場合、 disk1/TS-WLC2 と入力)
パッシブモード	FTP が正常に通信できていない場合、[有効] を選択します。

# 保存設定

## 保存先設定

The screenshot shows the Qwatch web interface. The top navigation bar includes 'Live View' and '設定' (Settings). A left sidebar lists menu items: '基本設定' (Basic Settings), 'ビデオ' (Video), '動作検知' (Motion Detection), and '保存設定' (Storage Settings). Under '保存設定', there are sub-items: '保存先設定' (Storage Location Settings), 'スケジュール機能設定' (Schedule Function Settings), and 'LAN DISK保存設定' (LAN DISK Storage Settings). The main content area is titled '保存場所' (Storage Location) and contains a '保存先:' (Storage Destination) dropdown menu currently set to 'SDカード' (SD Card), and a '設定' (Settings) button.

保存場所	
保存先	「LAN DISK/SD カードへ写真を保存」  または 「LAN DISK/SD カードへ映像を録画」  をクリックした際の保存先を選択します。 SD カード / LAN DISK から選択します。

# スケジュール機能設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- 保存先設定
- スケジュール機能設定

### スケジュール機能設定

スケジュール機能 :
 有効  無効

録画時間設定 :
 開始  :  ~ 終了  :

スケジュール機能設定	
スケジュール機能	有効 / 無効を選択します。
時間設定	録画をおこなう時間帯を設定します。 ※ スケジュールの開始と終了は、3分以上に設定してください。

## LAN DISK保存設定

# Qwatch

Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- **保存設定**
  - 保存先設定
  - スケジュール機能設定
  - LAN DISK保存設定**
  - SDカード保存設定
  - SDカードファイル管理
- システム

### LAN DISK保存設定

ステータス:	非接続
保存場所(LAN DISK):	\\ IPアドレス \ 共有フォルダー名 \ (フォルダー名)
録画容量不足の通知:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
録画の自動停止時間:	指定なし ▼
連続録画:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
1ファイル当たりの最大サイズ:	500 MB ▼
アクセス制限:	制限なし ▼
ユーザー名:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="password"/>

LAN DISK 保存設定	
	LAN DISK の状態を表示します。
ステータス	非接続 LAN DISK にファイルを保存できない状態です。LAN DISK が非接続または未設定または設定内容が間違っています。
	接続 LAN DISK にファイルを保存できる状態です。
保存場所	<p>保存先 LAN DISK の IP アドレスとフォルダー名を入力します。            ( \\ IP アドレス \ 共有フォルダー名 \ (フォルダー名) )</p> <p>※ ルートフォルダーに保存する場合は、「\ (フォルダー名)」は不要です。            ※ フォルダーおよびファイルを含めたフルパスで 256 文字まで入力できます。            ※ 保存先フォルダー名は半角英数字で指定します。</p> <p>例) 以下の場所を保存先に指定する場合、「\\192.168.0.200\disk\camera」と入力します。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">IP アドレス</span> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">共有フォルダー</span> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">フォルダー</span> </div>
録画容量不足の通知	<p>有効にすると、録画容量が足りなくなった場合に、メールでお知らせします。</p> <p>※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。(「メール設定」P.79 参照)</p>
録画の自動停止時間	選択した時間が経過すると自動的に録画を停止します。[指定なし]を選択すると、録画停止ボタンをクリックするまで録画を続けます。
連続録画	<p>有効にすると、連続で録画します。</p> <p>※ 容量が足りなくなった場合、古い録画ファイルを消して（上書きして）、録画を続けます。</p>
1ファイル当たりの最大サイズ	1 ファイルに保存できる最大のファイルサイズを選択します。
アクセス権限	制限あり 保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定されている場合に選択します。LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを設定します。
	制限なし 保存先 LAN DISK の共有フォルダーにアクセス制限を設定していない場合に選択します。
ユーザー名	上記、アクセス制限を [制限あり] にした場合、LAN DISK に登録したユーザー名とパスワードを入力し、設定します。
パスワード	

## SDカード保存設定

Qwatch
Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- **保存設定**
  - 保存先設定
  - スケジュール機能設定
  - LAN DISK保存設定
  - SDカード保存設定**

### SDカード保存設定

ステータス:	使用可能
残り容量:	1884 MB
録画容量不足の通知:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
録画の自動停止時間:	指定なし ▼
連続録画:	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
1ファイル当たりの最大サイズ:	500 MB ▼

SDフォーマット
マウント解除
設定

SD カード保存設定	
ステータス	SD カードの状態を表示します。 SD カードが挿入されていません。 SD カードが取り付けられていないか、保存できない状態です。 使用可能 SD カードにファイルを保存できる状態です。
残り容量	SD カードの空き容量を表示します。
録画容量不足の通知	有効にすると、録画容量が足りなくなった場合に、メールでお知らせします。 ※ メール設定は本製品の設定画面の [基本設定] → [メール設定] でおこないます。(「メール設定」P.79 参照)
録画の自動停止時間	選択した時間が経過すると自動的に録画を停止します。[指定なし]を選択すると、録画停止ボタンをクリックするまで録画を続けます。
連続録画	有効にすると、連続で録画します。 ※ 容量が足りなくなった場合、古い録画ファイルを消して(上書きして)、録画を続けます。
1 ファイル当たりの最大サイズ	1 ファイルに保存できる最大のファイルサイズを選択します。
SD フォーマット	クリックすると、SD カードを初期化します。 ※ 初期化すると SD カード内のデータがすべて消えてしまいます。 SD カード内に保存された重要なデータについては、必ず定期的にバックアップをおこなってください。 接続製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。 (バックアップとは保存したデータを守るために、HDD・BD・DVD などの記憶媒体にデータの複製を作成することです。データを移動させることはバックアップではありません。)
マウント解除	クリックすると、本製品の電源が入っている状態でも SD カードを取り外せます。

## SDカードファイル管理

# Qwatch

[Live View](#)
[設定](#)

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- **保存設定**
  - 保存先設定
  - スケジュール機能設定
  - LAN DISK保存設定
  - SDカード保存設定
  - SDカードファイル管理**
    - Event
    - Schedule
    - Manual

### SDカードファイル管理

SDカードに保存したファイルの管理を行います。

**Event:**  
SDカード内のEventフォルダです。動作検知により撮影したスナップショット、動画ファイルが保存されています。

**Schedule:**  
SDカード内のScheduleフォルダです。スケジュール設定を行って保存した動画ファイルが保存されています。

**Manual:**  
SDカード内のManualフォルダです。手動で撮影したスナップショット、録画ファイルを保存しています。

SD カードファイル管理	
Event	動作検知により撮影したスナップショット、動画ファイルの一覧を表示します。 [選択] にチェックをつけ、[削除] をクリックすると、ファイルを削除できます。
Schedule	スケジュール設定をおこなって保存した動画ファイルの一覧を表示します。 [選択] にチェックをつけ、[削除] をクリックすると、ファイルを削除できます。
Manual	手動で撮影したスナップショット、動画ファイルの一覧を表示します。 [選択] にチェックをつけ、[削除] をクリックすると、ファイルを削除できます。

# システム

## システム設定

# Qwatch

Live View [設定](#)

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- **システム**
  - システム設定
  - 詳細設定

### システム設定

カメラ名:	CAM- <input type="text"/>
管理者パスワード:	<input type="password"/>
パスワード再入力:	<input type="password"/>
ランプ:	<input checked="" type="radio"/> ON <input type="radio"/> OFF

システム設定	
カメラ名	本製品の名前を設定します。 ※ 出荷時設定：CAM-（MAC アドレス下 4 桁）
管理者パスワード	管理者パスワードを設定します。 ※ 出荷時設定：本製品の MAC アドレス ※ 半角英数字
パスワード再入力	「管理者パスワード」と同じパスワードを入力します。
ランプ	本製品のランプを消す場合は [OFF] を選択します。 ※ 出荷時設定：ON

## 詳細設定

# Qwatch

Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- **システム**
  - システム設定
  - 詳細設定
- システム情報
- QRコード管理

### ファームウェアの更新

ファームウェアの自動更新: 有効 無効 設定

ファイル名:  参照... 更新

### 設定の保存と復元

設定の保存: 実行

復元:  参照... 復元

### リセット

システムの再起動: 今すぐ再起動

初期値に戻す: ネットワーク設定を保持 出荷時設定 初期化

ファームウェアの更新	
ファームウェアの自動更新	[有効] にすると、ブラウザから本製品にアクセスした際にファームウェアの更新がないかを確認します。(1日1回) またファームウェアの更新がある場合は、更新をお知らせする画面が表示されます。 ※ 出荷時設定: 有効
ファイル名	ダウンロードしたファームウェアのアップデートファイルを指定します。[更新] を押すと、ファームウェアを更新します。
設定の保存と復元	
設定の保存	[実行] を押すと、本製品の各種設定情報をファイルに保存できます。 (保存先を選択し、[config.bin] ファイルを保存します。)
復元	[設定の保存] で保存したファイルから本製品の各種設定情報を読み込み、復元します。[参照] を押し、[設定の保存] で保存したファイルを読み込み、[復元] を押します。
リセット	
システムの再起動	[今すぐ再起動] を押すと、本製品を再起動します。 ※ 数分かかる場合があります。
初期値に戻す	[出荷時設定] を選択して、[初期化] を押すと、本製品の各種設定情報が出荷時設定に戻ります。 [基本設定] メニューの [ネットワーク] および [無線設定] メニュー内にある設定を保持し、その他の設定を出荷時設定に戻りたい場合は、[ネットワーク設定を保持] を選択して、[初期化] を押すと、本製品の各種設定情報が出荷時設定に戻ります。

# システム情報

## Qwatch

Live View 設定

- 基本設定
- ビデオ
- 動作検知
- 保存設定
- システム
- システム情報**
- QRコード管理

### システム

ファームウェアバージョン:	
ActiveXバージョン:	
起動時間:	1 hours 49 min 52 sec
システム時刻:	2013/09/24 13:23:09

### LAN

IPアドレス:	
サブネットマスク:	
デフォルトゲートウェイ:	
プライマリーDNS:	
セカンダリーDNS:	
MACアドレス:	
HTTPポート番号:	

### 無線LAN

無線LANリンクステータス:	無効
SSID:	
チャンネル:	
暗号化方式:	
AP MACアドレス:	

システム	
ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアのバージョン情報を表示します。
ActiveXバージョン	本製品がサポートしているActiveXのバージョン情報を表示します。
起動時間	最後に本製品の電源を入れてから、現在までの時間を表示します。
システム時刻	時刻を表示します。
LAN	
IPアドレス	本製品のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	本製品のデフォルトゲートウェイを表示します。
プライマリーDNS	プライマリーDNSを表示します。
セカンダリーDNS	セカンダリーDNSを表示します。
MACアドレス	本製品のMACアドレスを表示します。
HTTPポート番号	本製品のポート番号を表示します。
無線LAN	
無線LANリンクステータス	無線LANの接続状態を表示します。
SSID	接続している無線LANルーターのSSIDを表示します。
チャンネル	接続している無線LANルーターで使用中のチャンネルを表示します。
暗号化方式	接続している無線LANルーターの暗号化方式を表示します。
AP MACアドレス	接続している無線LANルーターのMACアドレスを表示します。

# QRコード管理

The screenshot shows the Qwatch application interface. At the top left is the 'Qwatch' logo. At the top right are links for 'Live View' and '設定' (Settings). On the left side, there is a vertical menu with the following items: '基本設定' (Basic Settings), 'ビデオ' (Video), '動作検知' (Motion Detection), '保存設定' (Save Settings), 'システム' (System), 'システム情報' (System Information), and 'QRコード管理' (QR Code Management), which is highlighted in yellow. The main content area is titled 'QRコード管理' and contains a blue button labeled 'QRコードを作成する:' followed by a grey button labeled '作成開始' (Start Creation).

QRコード管理

QRコードを作成する

[作成開始] をクリックすると、視聴期限付き QR コードを作成します。

# 仕様

---

動作環境 .....	100 ページ
ハードウェア仕様 .....	101 ページ
ソフトウェアの情報 .....	102 ページ

# 動作環境

対応パソコン	・ Windows パソコン ・ Mac
対応 OS (※ 1)	・ Windows 8.1 (※ 4) ・ Windows 8(32/64 ビット版) ・ Windows 7(32/64 ビット版) ・ Windows Vista(32 ビット版) SP2 以降 ・ Windows XP SP3 以降 ・ Mac OS X 10.6 ~ 10.8
対応ブラウザ (※ 2)	・ Internet Explorer 8.0 以上 ・ Google Chrome 10 以上 ・ Safari 5 以上 (Mac OS 版のみ対応) ・ Firefox 3.6 以上 ・ Opera 11 以上
対応モバイル端 末 OS (※ 3)	・ Android 2.3 ~ 2.4 ・ Android 3.2 ・ Android 4.0 ~ 4.3 ・ iOS 5.0 ~ 7.0

※ 1 Windows RT は非対応です。

※ 2 写真や動画の保存、デジタルズーム機能、全画面表示は、Internet Explorer のみ対応です。

※ 3 カメラアプリ「QwatchView」の対応 OS は、Android 4.0 以降、iOS 6.0 以降です。

※ 4 Internet Explorer 11 をお使いの場合、SD カードファイル管理機能がお使いいただけません。  
また Internet Explorer 11 の互換表示でお使いいただく必要があります。

# ハードウェア仕様

カメラ	100万画素 CMOS センサー
音声入力/出力	無指向性マイク×1 / 内蔵スピーカー：モノラル
暗視機能	対応
動作検知	対応
対応フォーマット（動画：静止画）	動画 H.264 時：静止画 BMP、動画 MJPEG 時：静止画 JPEG
対応解像度	HD (1280 × 720、H.264 のみ)、VGA (640 × 480)、QVGA (320 × 240)
最大撮影レート	HD：24/20/15/10/5 (fps)、VGA/QVGA：30/20/15/10/5 (fps)
通信周波数	2.4GHz 帯
無線規格	IEEE802.11n、IEEE802.11g、IEEE802.11b
無線伝送速度（最大値）	IEEE802.11n：150Mbps、IEEE802.11g：54Mbps、IEEE802.11b：11Mbps
無線 LAN セキュリティ	WEP (64/128 ビット)、WPA-PSK (TKIP)、WPA2-PSK (AES)
有線規格	100BASE-TX / 10BASE-T
microSD カード対応	microSD：最大 2GB、microSDHC：最大 32GB、microSDXC：最大 64GB (microSD カードはすべて FAT32 のみ対応)
同時アクセス数	最大 8 台 ※ アクセス台数が増えるとフレームレートが悪くなります。 ※ 推奨同時アクセス数：4 台
使用温度範囲 / 使用湿度範囲	0 ~ 40℃ / 20 ~ 80% (結露しないこと)
外形寸法	64 (W) × 28 (D) × 101 (H) mm (突起部、スタンド除く)
質量	約 115g (本体のみ)

# ソフトウェアの情報

## FFMPEG

### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library. To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE  
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

#### NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

#### END OF TERMS AND CONDITIONS

#### How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>  
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990  
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

## 困ったときには

---

困ったときには .....	107 ページ
アフターサービスについて .....	113 ページ
ハードウェア保証規定 .....	115 ページ

# 困ったときには

参照したいトラブルの対処をご覧ください。

トラブルの内容	参照ページ
有線 LAN で本製品に接続できない	108 ページ
無線 LAN で本製品に接続できない	108 ページ
本製品の映像が表示できない	108 ページ
設定画面が開けない	109 ページ
管理者用のユーザー名やパスワードを忘れてしまった	110 ページ
ActiveX がインストールできない	110 ページ
すでに ActiveX がインストールされているのに本製品の映像が表示されない	111 ページ
iobb.net の設定後、[アドレスの更新] ボタンを押すと、「ホスト名が違います。」と表示されて IP アドレスの更新に失敗してしまう	111 ページ
ハウリングする	111 ページ
スマートフォンで本製品の映像表示が遅い	112 ページ
映像設定により録画時間が違う	112 ページ
動作検知設定時、「テストメールを送信」でエラーになってしまう	112 ページ
動作検知設定時、「テストファイルを送信」でエラーになってしまう	112 ページ

ヒント

弊社Webページにも製品Q&Aを掲載しています

併せてご覧ください。またファームウェアは常に弊社が提供する最新版にアップデートしてご利用ください。



→ <http://www.iodata.jp/r/4457>

## Q 有線LANで本製品に接続できない

**対処** 本製品をつないでいる有線 LAN ルーターまたはハブの LAN ポートのランプが点灯していることを確認します。消灯している場合は、正しく LAN ケーブルが接続されていることを確認してください。

## Q 無線LANで本製品に接続できない

**対処** 手動で無線 LAN ルーターに接続した場合（本製品の設定画面→「基本設定」→「無線設定」から接続した場合）、入力した SSID と暗号キー（プレシェアードキーまたは WEB キー）が正しいかどうかご確認ください。

**対処** ご利用の無線 LAN ルーターにセパレート機能がある場合は、セパレート機能を使用せずに本製品を接続できるかどうかご確認ください。

## Q 本製品の映像が表示できない

**対処** 本製品がインターネット接続可能な環境に接続されていることを確認してください。

**対処** 添付の「かんたん接続シート」に記載の [ホスト名]、[HTTP ポート番号] を確認し、URL があっているかどうかご確認ください。

(例) ホスト名 : wcam-1234567 ポート番号 : 12345 の場合  
http://wcam-1234567.iobb.net:12345 にアクセス

**対処** 本製品を接続したネットワーク環境でルーターが 2 重になっている場合は、外部から本製品にアクセスができません。例えば、インターネット回線のモデムにルーター機能があり、更にブロードバンドルーターを接続している場合はルーター機能が 2 重になっている場合があります。どちらか一方のルーター機能を無効にしてご確認ください。

**対処** ご利用のルーターで UPnP 機能が有効であることを確認してください。また、ルーターの UPnP 機能が有効に設定されている状態で本製品にアクセスできない場合は、ルーター側で手動でポート開放設定をおこないアクセスできるかどうか、ご確認ください。

※ ルーターのポートの開放について

ポート開放には、本製品のポート番号と IP アドレスの情報が必要です。

- ・ポート番号：添付「かんたん接続シート」の「ポート番号」を確認
- ・IP アドレス：本製品と同一ネットワーク内にあるパソコンから「MagicalFinder」を起動して確認（「同じネットワーク上から本製品にアクセスする」P.22 参照）

ポートの開放について詳しくはルーターの取扱説明書またはメーカー様にてご確認ください。

(例) ホスト名 : wcam-1234567 ポート番号 : 12345 の場合  
http://wcam-1234567.iobb.net:12345 にアクセス

**対処**

- ・無線 LAN ルーターと本製品間の距離を短くしてご確認ください。
- ・間に障害物がある場合は、障害物を取り除いて見通しをよくしてご確認ください。
- ・無線 LAN ルーターのチャンネル設定を変更してください。どちらか一方のルーター機能を無効にしてご確認ください。

## Q 設定画面が開けない

- |    |  |
|----|--|
| 対処 | 本製品が起動中または再起動中の可能性があります。本製品の POWER ランプが緑点灯するまでお待ちください。   |
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。   |
| 対処 | パソコンの IP アドレスが本製品と通信できないもの場合、本製品の IP アドレスを固定設定にしてご利用ください。<br>(「IP アドレスの変更方法」 P.62 参照)  |
| 対処 | Web ブラウザーがダイヤルアップする設定になっている場合、以下の手順でダイヤルしない設定にします。<br>① [Internet Explorer] 画面の [ツール] メニューの [インターネット オプション] をクリックします。<br>② [接続] タブをクリックし、[ダイヤルしない] をチェックします。   |
| 対処 | Web ブラウザーがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。<br>Web ブラウザーの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。<br><br>▼ Windows の場合<br>① [Internet Explorer] 画面の [ツール] メニューの [インターネット オプション] をクリックします。<br>② [接続] タブをクリックし、[LAN の設定] ボタンをクリックします。<br>③ すべてのチェックを外し、[OK] をクリックします。<br>④ [インターネット オプション](または [インターネットのオプション]) へ戻りますので、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。<br>以上で設定は完了です。<br><br>▼ Mac OS の場合<br>① [アップルメニュー] → [場所] → [ネットワーク環境設定 ...] の順にクリックします。<br>② [プロキシ] タブをクリックし、以下の設定をおこないます。<br>③ 設定後、左上の (×) をクリックして、画面を閉じます。<br>以上で設定は完了です。 |
| 対処 | Mac OS の場合、[アップルメニュー] → [ネットワーク環境 (場所)] → [ネットワーク環境設定] → [TCP/IP] で、<br>[DHCP サーバを参照] が選択されていることを確認してください。<br>[DHCP サーバを参照] が選択されていない場合は、[PPPoE] をクリックし、[PPPoE を使って接続] にチェックが入っている場合は、チェックを外してください。  |
| 対処 | PPPoE の広帯域接続を使用している場合は、以下の手順で設定してください。<br>▼ Windows の場合<br>ネットワーク接続で [広帯域] を削除してください。<br><br>▼ Mac OS X (~ 10.4) の場合<br>システム環境設定内の「ネットワーク」で [PPPoE を使って接続する] がチェックされていないことを確認してください。<br><br>▼ Mac OS X (10.5 ~) の場合<br>システム環境設定内の「ネットワーク」で [PPPoE] で接続されていないか確認してください。<br>PPPoE の接続設定がある場合は設定をクリックし [-] ボタンをクリックして削除してください。  |

## Q 管理者用のユーザー名やパスワードを忘れてしまった

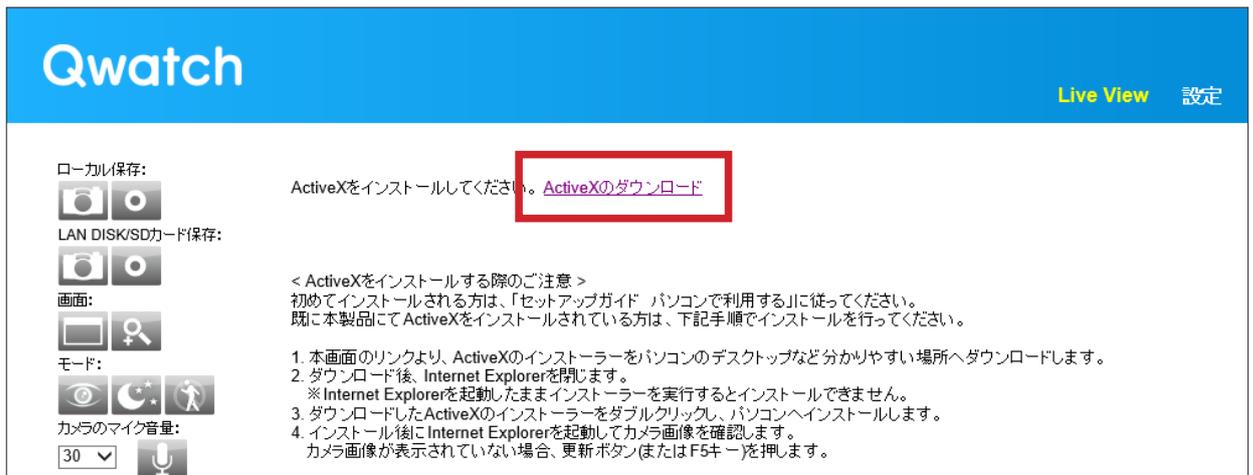
- 対処** 出荷時設定はユーザー名：admin、パスワード：本製品の MAC アドレス（12 桁の半角大文字）になります。  
 出荷時設定から変更して忘れてしまった場合は、出荷時設定に戻してください。  
 （「出荷時設定に戻す方法」 P.71 参照）  
 出荷時設定に戻すと、その他の設定も初期化されますので、設定しなおしてください。

## Q ActiveXがインストールできない

- 対処** Internet Explorer の設定を確認してください。
- ① Internet Explorer を開き、[ツール] → [インターネット オプション] の順にクリックします。
  - ② [セキュリティ] → [レベルのカスタマイズ] の順にクリックします。
  - ③ [署名された ActiveX コントロールのダウンロード]（または [署名済み ActiveX コントロールのダウンロード]）の [ダイアログを表示する] にチェックをつけ、[OK] をクリックします。
  - ④ Internet Explorer を利用して本製品にアクセスし、ActiveX のインストールができるかどうかご確認ください。

**対処** 以下の手順でインストールしてください。

- ① 以下の画面上にある [ActiveX のダウンロード] をクリックし、ActiveX のインストーラーをパソコンのデスクトップなどわかりやすい場所へダウンロードします。

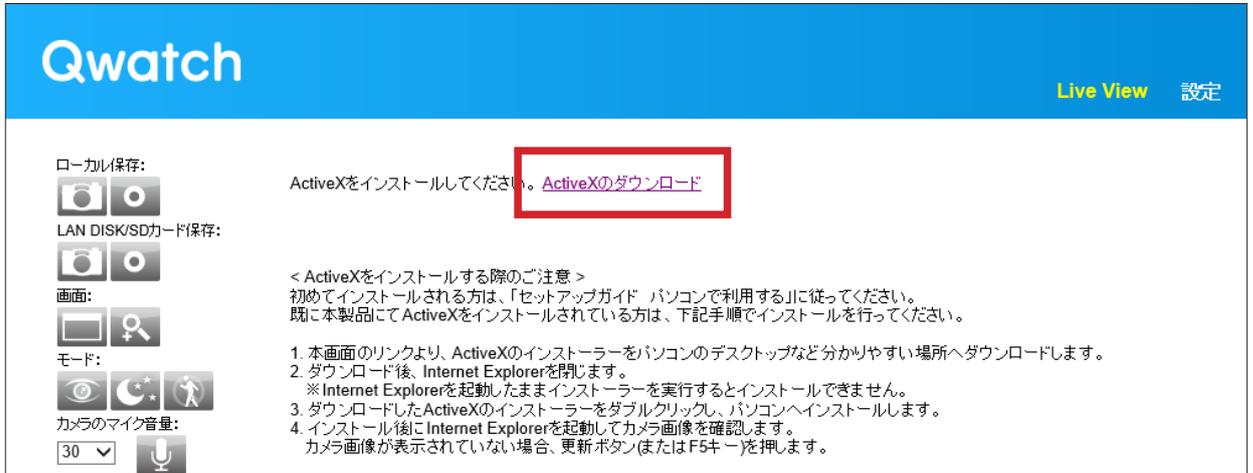


- ② ダウンロード後、Internet Explorer を閉じます。  
 ※ Internet Explorer を起動したままインストールを実行すると、インストールできません。
  - ③ ダウンロードした ActiveX のインストーラーをダブルクリックし、パソコンへインストールします。
  - ④ インストール完了後、Internet Explorer を起動します。
  - ⑤ LiveView 画面に本製品の映像が表示されるか確認します。本製品の映像が表示されていない場合は、更新ボタンまたは F5 キーを押します。
- 以上でインストールは完了です。

## Q すでにActiveXがインストールされているのに本製品の映像が表示されない

**対処** 以下の手順でインストールしてください。

- ① 以下の画面上にある [ActiveXのダウンロード] をクリックし、ActiveXのインストーラーをパソコンのデスクトップなどわかりやすい場所へダウンロードします。



- ② ダウンロード後、Internet Explorer を閉じます。  
※ Internet Explorer を起動したままインストールを実行すると、インストールできません。
  - ③ ダウンロードした ActiveX のインストーラーをダブルクリックし、パソコンへインストールします。
  - ④ インストール完了後、Internet Explorer を起動します。
  - ⑤ LiveView 画面に本製品の映像が表示されるか確認します。本製品の映像が表示されていない場合は、更新ボタンまたは F5 キーを押します。
- 以上で、インストールは完了です。

## Q iobb.netの設定後、[アドレスの更新] ボタンを押すと、「ホスト名が違います。」と表示されてIPアドレスの更新に失敗してしまう

**対処** 以下の順に確認してください。

- ① 入力したホスト名をご確認ください。  
※ xxxx.iobb.net の場合、「xxxx」のみ入力します。  
※ 出荷時設定は添付の「かんたん接続シート」に記載しています。  
出荷時設定：wcam- (半角英数字 7 文字) .iobb.net
- ② ホスト名の前にスペース (空白) が入っていないかをご確認ください。  
ホスト名の先頭に、空白が入ってしまう場合があります。空白が入っていないかどうか確認してください。

## Q ハウリングする

**対処** 本製品のマイクとパソコンのスピーカーでハウリングを起こす可能性があります。スピーカー付きパソコンで使用する場合は、本製品をスピーカー部から 1m 以上離してください。

## Q スマートフォンで本製品の映像表示が遅い

**対処** お使いのスマートフォンによっては、高画質設定にすると、本製品の映像表示が遅くなる場合があります。主にスマートフォンを使用する場合は、本製品の設定画面の「ビデオ」→「映像設定」画面にて、以下の設定に変更してお試しください。（「映像設定」 P.81 参照）

解像度：QVGA

画質：普通

最大フレームレート：15

## Q 映像設定により録画時間が違う

**対処** 本製品の設定画面より [ビデオ] → [映像設定] 画面を開き、設定します。（「映像設定」 P.81 参照）以下の例を参考に設定してください。

フォーマット	解像度	フレームレート	1時間あたりの録画容量	1TBのHDDに録画可能時間
H.264	HD	24fps	約 800MB	約 1230 時間
		15fps	約 750MB	約 1320 時間
	VGA	30fps	約 840MB	約 1180 時間
		15fps	約 710MB	約 1390 時間
	QVGA	30fps	約 780MB	約 1260 時間
		15fps	約 660MB	約 1510 時間
MJPEG	VGA	30fps	約 1.8GB	約 540 時間
		15fps	約 1.7GB	約 560 時間
	QVGA	30fps	約 1.7GB	約 560 時間
		15fps	約 1.7GB	約 570 時間

※ フレームレートは設置環境により設定値より低くなる場合があります。また、ファイルサイズはフレームレートの変動により増減します。

※ ローカル (PC) へ録画する場合、連続して録画ファイルを保存することができません。1つの録画ファイル（上限 500MB）が作成される毎に表示されるメッセージにしたがって操作してください。

## Q 動作検知設定時、「テストメールを送信」でエラーになってしまう

**対処** 以下をご確認ください。

- ・本製品の IP アドレスを固定設定している場合は、「デフォルトゲートウェイ」および「プライマリー DNS」、「セカンダリー DNS」の設定が正しいかどうかご確認ください。（「ネットワーク」 P.74 参照）
- ・本製品の設定画面の「動作検知」→「メール設定」に入力している「アカウント」と「パスワード」が正しいかどうかご確認ください。（「メール設定」 P.79 参照）

## Q 動作検知設定時、「テストファイルを送信」でエラーになってしまう

**対処** 以下をご確認ください。

- ・本製品の IP アドレスを固定設定している場合は、「デフォルトゲートウェイ」および「プライマリー DNS」、「セカンダリー DNS」の設定が正しいかどうかご確認ください。（「ネットワーク」 P.74 参照）
- ・LAN DISK 側の FTP 設定にて、「userFTP」が設定されているかどうかご確認ください。（詳しくは LAN DISK の取扱説明書をご覧ください）
- ・本製品の設定画面の「動作検知」→「FTP 設定」に入力している「パス」が正しいかどうかご確認ください。（弊社製 HDL-XR、HDL-V シリーズをご利用の場合、パスの最初に「sataraid1」を付け加える必要があります。例えば、disk1 フォルダを指定したい場合、「sataraid1/disk1」と入力してください。）

# アフターサービスについて

ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

## お問い合わせについて

お問い合わせいただく前に、**以下をご確認ください**



**「困ったときには」を参照 (107 ページ参照)**



**弊社サポートページのQ&Aを参照**

➔ <http://www.iodata.jp/support/>



**最新のソフトウェアをダウンロード**

➔ <http://www.iodata.jp/lib>



それでも解決できない場合は、**サポートセンターへ**

**電話：050-3116-3017**

※受付時間 9：00～17：00 月～金曜日（祝祭日をのぞく）

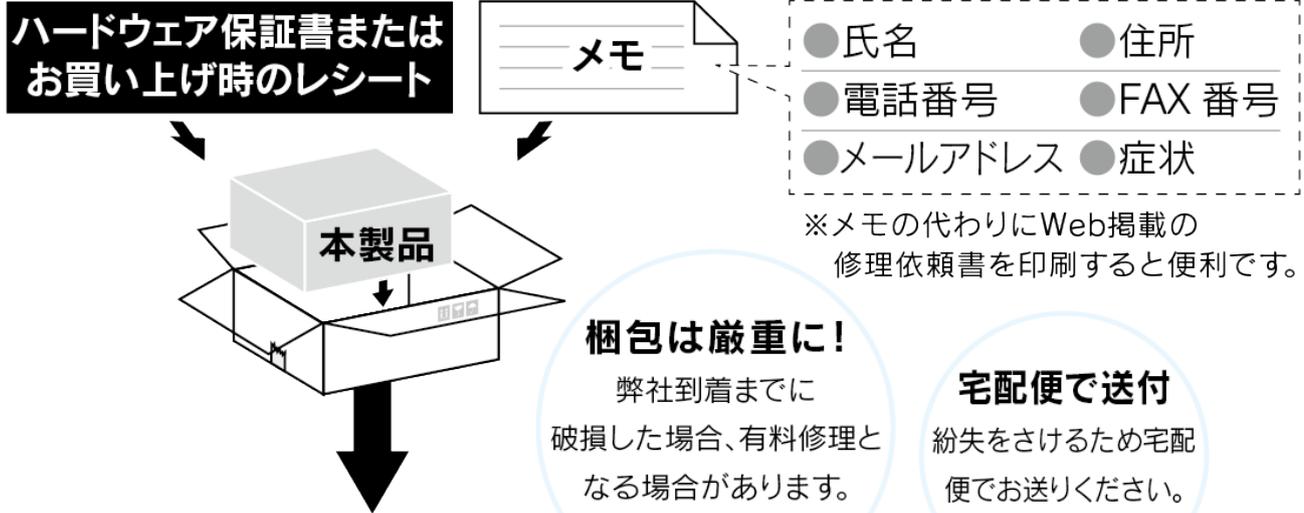
**FAX：076-260-3360**

**インターネット：<http://www.iodata.jp/support/>**

<ご用意いただく情報> 製品情報（製品名、シリアル番号など）、パソコンや接続機器の情報（型番、OSなど）

## 修理について

修理を依頼される場合は、以下の要領でお送りください。



〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
株式会社 アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

- 送料は、発送時はおお客様ご負担、返送時は弊社負担とさせていただきます。
- 有料修理となった場合は先に見積をご案内いたします。(見積無料) 金額のご了承をいただいてから、修理をおこないます。
- 内部にデータが入っている製品の場合、厳密な検査のため、内部データは消去されます。何卒、ご了承ください。  
バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップをおこなってください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。
- お客様が貼られたシール等は、修理時に失われる場合があります。
- 保証内容については、ハードウェア保証規定に記載されています。
- 修理品をお送りになる前に製品名とシリアル番号(S/N)を控えておいてください。

修理について詳しくは… <http://www.iodata.jp/support/after/>

# ハードウェア保証規定

弊社のハードウェア保証は、ハードウェア保証規定（以下「本保証規定」といいます。）に明示した条件のもとにおいて、アフターサービスとして、弊社製品（以下「本製品」といいます。）の無料での修理または交換をお約束するものです。

## 1 保証内容

取扱説明書（本製品外箱の記載を含みます。以下同様です。）等にしがった正常な使用状態で故障した場合、お買い上げ日が記載されたレシートや納品書をご提示いただく事により、お買い上げ時より12ヶ月、無料修理または弊社の判断により同等品へ交換いたします。

## 2 保証対象

保証の対象となるのは本製品の本体部分のみとなります。ソフトウェア、付属品・消耗品、または本製品もしくは接続製品内に保存されたデータ等は保証の対象とはなりません。

## 3 保証対象外

以下の場合は保証の対象とはなりません。

- 1) レシートや納品書に記載されたご購入日から12ヶ月の保証期間が経過した場合
- 2) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害または異常電圧等の外部的事情による故障もしくは損傷の場合
- 3) お買い上げ後の輸送、移動時の落下・衝撃等お取扱いが不適当なため生じた故障もしくは損傷の場合
- 4) 接続時の不備に起因する故障もしくは損傷、または接続している他の機器やプログラム等に起因する故障もしくは損傷の場合
- 5) 取扱説明書等に記載の使用方法または注意書き等に反するお取扱いに起因する故障もしくは損傷の場合
- 6) 合理的使用方法に反するお取扱いまたはお客様の維持・管理環境に起因する故障もしくは損傷の場合
- 7) 弊社以外で改造、調整、部品交換等をされた場合
- 8) 弊社が寿命に達したと判断した場合
- 9) 保証期間が無期限の製品において、初回に導入した装置以外で使用された場合
- 10) その他弊社が本保証内容の対象外と判断した場合

## 4 修理

- 1) 修理を弊社へご依頼される場合は、本製品と本製品のお買い上げ日が記載されたレシートや納品書等を弊社へお持ち込みください。本製品を送付される場合、発送時の費用はお客様のご負担、弊社からの返送時の費用は弊社負担とさせていただきます。
- 2) 発送の際は輸送時の損傷を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材をご使用いただき、輸送に関する保証および輸送状況が確認できる業者のご利用をお願いいたします。弊社は、輸送中の事故に関しては責任を負いかねます。
- 3) 本製品がハードディスク・メモリーカード等のデータを保存する機能を有する製品である場合や本製品の内部に設定情報をもつ場合、修理の際に本製品内部のデータはすべて消去されます。弊社ではデータの内容につきましては一切の保証をいたしかねますので、重要なデータにつきましては必ず定期的にバックアップとして別の記憶媒体にデータを複製してください。
- 4) 弊社が修理に代えて交換を選択した場合における本製品、もしくは修理の際に交換された本製品の部品は弊社にて適宜処分いたしますので、お客様へはお返しいたしません。

## 5 免責

- 1) 本製品の故障もしくは使用によって生じた本製品または接続製品内に保存されたデータの毀損・消失等について、弊社は一切の責任を負いません。重要なデータについては、必ず、定期的にバックアップを取る等の措置を講じてください。
- 2) 弊社に故意または重過失のある場合を除き、本製品に関する弊社の損害賠償責任は理由のいかんを問わず製品の価格相当額を限度といたします。
- 3) 本製品に隠れた瑕疵があった場合は、この約款の規定に関わらず、弊社は無償にて当該瑕疵を修理し、または瑕疵のない製品または同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償責任を負いません。

## 6 保証有効範囲

弊社は、日本国内のみにおいて本保証規定に従った保証を行います。本製品の海外でのご使用につきましては、弊社はいかなる保証も致しません。 Our company provide s the service under this warranty only in Japan.

#### 【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。

したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。

これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じて、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。

3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)

4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。

5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

#### 【使用ソフトウェアについて】

本製品は、GNU General Public License Version 2.0 June 1991 に基づいたソフトウェアが含まれています。変更済み GPL 対象モジュール、GNU General Public License、及びその配布に関する条項については、弊社のホームページにてご確認ください。これらのソースコードで配布されるソフトウェアについては、弊社ならびにソフトウェアの著作者は一切のサポートの責を負いませんのでご了承ください。

#### 【商標について】

- I-O DATA は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft、Windows および Windows Vista は、米国または他国における Microsoft Corporation の登録商標です。
- iPhone、iPad、iPod touch、App Store は Apple Inc. の商標です。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google Inc. の商標または登録商標です。
- QR コード® は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

進化する明日へ Continue thinking

株式会社 **アイ・オー・データ機器**  
ホームページ <http://www.iodata.jp/>